ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標	
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6					
BIK99-1-064	入門	共通	芸術文化概論	必修	1	講義	2	1Q	双方向遠隔	60				20	20		京都芸術大学で美術工芸を学ぶことの意義を知る	歴史と伝統への依拠だけでなく、常に新しさを取り入れ変容を続けてきた「京都」。日本文化を代表する存在として、時代を牽引し続けた京都という特徴的な都市で美術工芸を学ぶことの意義と、美術工芸学科を構成する制作・研究の各分野の有機的な繋がりについて、教員たちの様々な専門性やこれまでの経験に基づく具体的な事例をもとに学んでいく。	京都の歴史文化的特徴を認識し、そのような環境で自らが芸術を学ぶことの意義について深く関心を持ち、それについて効果的に表現できる。美術工芸学科を構成する各分野の位置付けと関係性について体系的に理解し、その有意義性を発展的に考えられる。	京都の歴史文化的特徴を認識し、そのような環境で自らが芸術を学ぶことの意義について関心を持ち、それについて表現できる。美術工芸学科を構成する各分野の位置付けと関係性について体系的に理解できる。
BIK99-1-065	入門	共通	美術工芸入門1	必修	1	演習	2	1Q		40				30	30		みることの探求・認知と描写	知識：絵や言葉をはじめとするものや事象を観察する上で多様なアプローチがあること、またその意義について理解することができる。 態度：身の回りのありふれたものや事象に対し、様々な観点から積極的・主体的に観察を行い、得られた考えを適切かつ具体的に他者に説明できる。技能：ものや事象に対して量・質とも十分に観察をすることができている。また、観察の結果やそこから導いた解釈や考察について、他者の考えとの関わりも考慮に入れ、観察との整合性や独自性を持って表現・描写できている。	「みる」とは何かを多様な観点から考えるときにも、身の回りのものや事象を多面的に捉えるためのアプローチがあることが理解できる。	知識：絵や言葉をはじめとするものや事象を観察するための基本的アプローチを理解できる。 態度：身の回りのありふれたものや事象に対し、様々な観点から主体的に観察を行うことができる。 技能：ものや事象を多面的に認識する方法やその意義を自分の言葉で説明できる。
BIK99-1-070	入門	共通	図学	選択	1	講義	2	3Q					30	50	20		「かたち」を思考・認識し、描き、伝達する	古代ギリシャ時代、人々は空間に存在する「かたち」を平面上に書き表し、表現・伝達のために図形の性質を解析した。それが「図学」の始まりとされている。その後時代ごとに様々な工夫が見出され、ルネッサンス期には透視図法(パース)を明確に表す絵画も現れるなど、絵画の発展とも深く関係する一面を持つ。「図」は「かたち」や「空間」を時代、文化、言葉を超えて表現・伝達できる「視覚的共通言語」ともいえる。本授業では図法の基本的な考え方を示し、過去の作品に対する図学的視点からの解説を行うとともに、基礎的な図法の体験を通して、立体や空間の理解、認識能力を養い、自己の創作活動での作品表現へのヒントを伝えていく。	・立体や空間図形への理解を深め、作図の中で適切に応用することができる。 ・空間の概念に対する認識力を高め、作図の中で適切に応用することができる。 ・「図」による表現、伝達能力や「かたち」と「空間」の創造・シミュレーション能力を養い、実作の中で展開できる応用性を獲得することができる。	・立体や空間図形への理解を深めることができる。 ・空間の概念に対する認識力を高めることができる。 ・「図」による表現、伝達能力や「かたち」と「空間」の創造・シミュレーション能力を養うことができる。
BIK01-1-001	入門	日本画	日本画入門演習1	選択	1	演習	2	1Q					10	50	40		色と形の世界を五感で表現する	本授業では様々な色材とそこから生み出される色彩を用いてモチーフから感じる要素を五感で捉えていき、写真では決して捉えることのできない感覚を養うことを学んでいく。絵画は、色と形でできている。この単純なことを根幹に、人間は飽きもせず絵画制作を繰り返してきた。色と形を自由に操れば、どんな絵も描くことができる。まずは目の前にあるものから色と形を見つけていこう。そして、ただだとそこから離れても良いし、元に戻っても構わない。自分で見つけること、探し出すこと、気が付くことが自分そのもの形作っていくことを理解していく。	【知識】 ・色材の特性を把握し基礎的な使用法を熟知し、応用的な活用方で発展できる。 【態度】 ・モチーフを多角的に観察し対象の本質を探索し、絵画的に対象を捉えることができる。 ・常識にとらわれず取り組み、発見や気づきを制作に高いレベル繋げることができる。 【技能】 ・偶発的にできた表現を検証し 実践を通じて再現可能な独自の技法に昇華できる。	【知識】 ・使用する色材の材質や特性を活かすことができる。 【態度】 ・モチーフより良く観察し、対象の本質を探索することができる。 ・常識にとらわれず制作を進める中で発見や気づきを大切にすることができる。 【技能】 ・偶発的な結果を楽しみながら独自の技法を身につけることができる。 ・五感で捉えた情報を画面上に表現できる
BIK02-1-010	入門	油画	油画入門演習1	選択	1	演習	2	1Q		30				40	30		「人をデッサンする」デッサン研究	人物モデルを前にして人体の本質を探りながら描く。美術解剖学にも触れ、人体の有機的な構造を理解し、クロッキー、デッサンを展開する。特に、クロッキーではモデルと向き合う限られた時間のなかで現れてくる線と呼吸の関係、厚紙に油彩クロッキーをするときの即興的な楽しさを味わいたい。また、人を描くことと絵画が内包する時間性について考察を深めたい。自画像では、木炭デッサンを推奨する。それは線と面を同時に表現出来ること、消しながら描き進めるのが容易な描画材だからである。後の油彩画制作にも役立つため、積極的に試行錯誤したい。	・美術解剖学的な知識を実技と重ね、人体の骨格や筋の構造を理解することができる。 ・有志でモデルを交代し、対象から勢いのある線を抽出することができる。 ・細部への配慮をしつつ、対象の全体を捉えることができる。	・人体の複雑な構造と機能の有機的な繋がりを解剖学的に理解し、描きながら探ることができる。 ・呼吸と線の関係を意識し、対象を観察しながらいきいきとした線をひくことができる。 ・全体と細部の関係、かたちや調子の法則について理解し、制作に活かすことができる。
BIK08-1-037	入門	写映	写真・映像入門演習1	選択	1	演習	2	1Q		40				60			機械の目-カメラによるイメージメイクと光の研究	露出やレンズの焦点距離、光の効果といった写真撮影における基本原理を学び、その理解を前提として作品制作を行うことで、カメラによるイメージメイクの術を探究する。同時に、デジタルカメラによる撮影、アプリケーションによる画像調整、インクジェットプリンターによるプリントといった、デジタル写真制作の基本プロセスを学ぶ。	【知識】カメラの基本操作を習得し、光の特性や写真の原理についての理解を深めることができる。 【態度】カメラの機能や光の効果を創造的に活用し積極的に作品表現に応用することができる。 【技能】撮影、画像調整、プリントの基本工程、基礎技術を理解・習得することができる。	【知識】カメラの基本操作を習得し、光の特性や写真の原理について親しむことができる。 【態度】カメラの機能や光の効果を活用した作品表現を目指すことができる。 【技能】撮影、画像調整、プリントの基本工程といった基礎技術を理解し、一人で実行することができる。
BIK05-1-028	入門	総造	総合造形入門演習1	選択	1	演習	2	1Q		20				30	50		彫刻演習 →かたちへのまなざし	自己を対象としたモチーフとして粘土塑像を制作する。彫刻/立体造形領域における根本となる考え方、技法を学ぶ原点かつ基礎的な課題であり、彫刻の基礎知識と捉え方を身につける。量感・ボリューム、塊・マスの感覚を持つことや、全体と細部の観察を通してかたちに対するまなざしの意識、基本的な見方を養う。今後の造形表現に必要な観察力を身につける。	【知識】頭部の構造を把握し、人体の成り立ちを骨格的にとらえ、正しく理解し説明できる。 【態度】全体と細部の観察を通して各部位を立体として捉えることができ、量感・バランスの見極めなど、対象全体への観察意欲をより高度に高めている。 【技能】粘土塑像の基本技術が身に付き、制作に必要な道具を的確に選択し使用することで、造形性の検討も充分にできる。	【知識】頭部の構造および人体を骨格的にとらえることができる。 【態度】全体と細部の観察を通して、かたちに対するまなざしの意識を持つことができる。 【技能】粘土塑像の基本技術が身に付き、制作に必要な道具を使用できる。
BIK03-1-019	入門	染織	染織テキスタイル入門演習1	選択	1	演習	2	1Q		40				30	30		基本的な布や染料の特性を知り、多色の扱い方を学ぶ	生地、染料(化学染料、植物染料)、水を実際に触り、生地に色を染めることを学ぶ。また生地に染料を染み込ませた際の染料特有の色の美しさに触れると同時に、材料学的な知識と化学反応で色を定着させるまでの一連のプロセスを体得する。引染、ほかし染などの染色技法を通して、「単色から多色へ「染めること」と「染め分けること」を実践する。そのような工芸的技法を通して染料や道具に親しみ、体を繰り返し動かすことで技術を鍛錬する。	・基本的な染色技術を通して色を使いこなすための基礎力が身につく、各種染料の特質や色味の特徴に興味を持って染の助剤や定着技法を理解し、染めること、染め分けること(防染)の仕組みを理解している。 ・特性を理解した上で生地や染料、助剤についての知識が身についている。 ・能動的に体を動かし染の技術を主体的に探究することができる。	・基本的な染色技術を通して、色を使いこなすための基礎力が身につく、染めること、染め分けること(防染)の仕組みを理解している。 ・特性を理解した上で生地や染料、助剤についての知識が身についている。 ・能動的に体を動かし染の技術を主体的に探究することができる。
BIK68-1-046	入門	ASP	アートプロデュース入門	選択	1	講義	2	1Q		30				40	30		アートプロデュース概論	アートプロデュースの具体的な事例・実践を幅広く紹介することによって、アートプロデュース領域の全体像と基礎的知識について概観する。具体的な事例・実践を学びながら、アートプロデュースという観点の社会的意義を持つて考察する。企画書作成のために必要な要素を把握し、展覧会やプロジェクトの企画構想、実施、評価報告までの一連の流れを理解する。	①アートプロデュースがどのような領域であるかについて理解し、今後この領域について学んでいくための基礎的知識や考え方を身につけ、他者に説明することができる。 ②アートプロデュースが何をとおこない、そのことが社会の中でどのような意義を持っているのかを理解し、他者に説明することができる。 ③展覧会やプロジェクトを企画・実施・報告するための一連の流れを理解し、他者に説明できるよう企画書などの形にすることができる。	①アートプロデュースがどのような領域であるかについて理解し、今後この領域について学んでいくための基礎的知識や考え方を身につけている。 ②アートプロデュースが何をとおこない、そのことが社会の中でどのような意義を持っているのかを理解し、他者に説明することができる。 ③展覧会やプロジェクトを企画・実施・報告するための一連の流れを理解している。

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標			
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6							
BIK78-1-055	入門	歴史	歴史遺産学入門演習	選択	1	講義+演習	2	1Q							50		30	20	歴史遺産学概論	歴史遺産を研究するためには、歴史的なものの見方を身につけることが重要である。講義では、まず学問の基礎となる資料の調査方法や学術的文章を読み、書くための方法について論じる。これを踏まえ、演習では歴史遺産学に関する専門的な情報の収集と整理の技術を身につける。そして専門的な講義を聞いて理解し、考え、まとめる、という課題に取り組むことにより、日本の伝統文化や地域文化など、歴史遺産学に関する基礎的な知識を広く獲得することを目的とする。	態度：講義、演習両者において歴史遺産学の基本的な考え方や倫理観を理解し、現代社会と関連付けながら論理的に説明できる。 知識：講義において歴史遺産学に関する基本用語や基礎的な研究方法を理解するとともに、演習を通して特定の専門領域に関してはより深く理解し説明できる。 技能：演習において学術情報の収集や整理を的確に行い、具体的な歴史遺産についての学術的な価値を理解し、現状を分析した上で自身の価値評価を文章によって表現することができる。	態度：講義、演習を通じて歴史遺産学の基本的な考え方や倫理観を理解し、自身の言葉で説明できる。 知識：講義において歴史遺産学に関する基本用語と各専門領域の基本的な用語の定義を理解し、調査や修復の基礎的な方法を説明できる。 技能：演習において情報収集や整理の方法を身につけ、歴史遺産に関する学術的な価値を理解し、自身の文章によって表現することができる。
BIK99-1-066	入門	共通	美術工芸入門2	必修	1	演習	2	2Q							40	30	30		身の回りのモノに対する「みる」という行為についての学び(美術工芸入門1)を基礎としながら、視野を広げて様々な場所やモノを主体的に観察し、多角的な捉え方についての感性を磨く。一部の授業では、歴史都市・京都をフィールドとして実際に様々な場所におもむき調査や討論を行う。また、今後の制作・研究を見据え、フィールドにおける基礎的かつ効果的な情報収集の方法を理解するとともに、調査・フィールドワークにおける注意事項・マナーやコミュニケーションのあり方などを理解する。	知識：自然・文化・歴史が重なり合う多様な要素、モノ、景観を多面的に観察するとともに、必要な情報を体系的に収集・整理することができる。 態度：過去・現在を問わず自然的・文化的・歴史的な要素や場に対し主体的にアプローチし、得られた知見を他者と適切に共有し、自らの考察をさらに深めることができる。 技能：様々なモノや場所を多面的に捉え自分なりの考察を行うとともに、成果物の中でそれを客観的かつ具体的に提示することができる。	「みること」の基礎的理解にもとづき、対象物に関する情報を自ら収集した上、自分の考えを整理し他者にわかりやすく提示することができる。 知識：フィールドにある多様な要素、モノ、景観などを多角的に捉えることができる。 態度：観察から得られた考えを他者に適切に説明し共有することができる。 技能：対象物に関する様々な情報を収集し、観察結果と関連付けて考察することができる。	
BIK99-1-071	入門	共通	美術概論	選択	1	講義	2	2Q							60	40			近代以降の美術、制作者にととの美術史・作品研究	近代から現在に至る美術のあり方について、通史とは異なる形で解説する。美術理論および美術史的観点から重要と思われる事象・テーマをピックアップし、そのテーマについての掘下げを通して学びを深めていく。制作者としての視点を重視しつつ、日本及びアジアの美術にも触れながら、近代以降の美術の理解と読み解きに繋げる。	制作者それぞれのプロセスやその影響元との関連を自主的に積極性をもって学ぶことができる。 近代以降だけでなく、それまでの歴史の繋がりに関しても踏まえての美術のあり方と自らの研究・制作を結びつけて思考できるようになる。 また自身の研究や創作活動に活かせるような作家・作品をリサーチでき、それを提示することができる	制作者それぞれのプロセスやその影響元との関連を学ぶことができる。 近代以降の美術のあり方と自らの研究・制作を結びつけて思考できるようになる。 創作活動に活かせるように作家・作品をリサーチできるようにする。
BIK99-1-072	入門	共通	文化遺産論	選択	1	講義	2	2Q	双方向 遠隔						60	10	30		文化遺産の意義と価値を知る	文化遺産とは何か、そこに受け継がれている歴史は何か。どのように保存・修復し、活用していくべきか。文化財保護の考え方の変遷や、文化財を保存修復していくための方法論の基礎をまなぶ。また、博物館・美術館等における実践的活動についての紹介や、戦争・自然災害時における文化財保護の取り組み事例を学ぶことにより、文化財保存修復活動をする上での現代的意義や、将来的な取り組みについてを考究する。	知識：文化遺産および文化財の調査研究や保存修復に関わる学史・研究史や各種調査法の概要を把握するとともに、その到達点と問題点を明確に示すことができる。 態度：文化遺産および文化財の調査研究や保存修復の過去・現在・未来を様々な観点から探求し、その変化や背景を自分の言葉で説明することができる。 技能：多様な文化遺産分野における将来の課題や問題、見通しを自分自身で考え、最新の研究動向と関連付けながら他者に説明することができる。	知識：学史・研究史や各種調査法の概要を適切に理解できる。 態度：文化財の調査研究や保存修復の過去・現在・未来に対し、様々な観点から主体的に探求することができる。 技能：文化財に関わる将来の課題や見通しを考え、他者に説明することができる。
BIK01-1-002	入門	日本画	日本画入門演習2	選択	1	演習	2	2Q							60		40		日本画材で描くための最初のいろはを学ぶ	【知識】 ・日本画材料を熟知し、その使用方法や制作工程を他者に明解に解説することができる。 【態度】 ・スケジュール管理を的確に行い、作品の質を上げるため作業時間を優先的に確保し作業を行えるようになる。 【技能】 ・日本画材料の特性を理解した上で、表現に応じた的確に画材を使用し絵画制作ができるようになる。	【知識】 ・日本画材料を使った制作工程を他者に説明することができる。 【態度】 ・時間を持って余すことなく、段取り良く制作時間を確保することができるようになる。 【技能】 ・日本画材料を使用した絵画制作ができるようになる。	
BIK02-1-011	入門	油画	油画入門演習2	選択	1	演習	2	2Q							30		40	30	「初期の油彩画」古典絵画研究	鏡に映る自分をモチーフに自画像を描き、初期油彩画の技法と考え方の習得を目標とする。油彩によるデッサンとも解釈できる白から黒までのグラデーションを基調とするグリザイユと、透明な色彩のおつゆ描きによるグラス技法を行う。土性顔料を主としたパレットを使用し、不透明色と透明色のレイヤーの重なりから初期油彩画古典技法の色彩表現を学ぶ。また、油彩画の支持体の性質と役割についても学ぶ。	・明暗の階調を理解し、中間色層からグリザイユによる白色浮出と暗部の描き出しによって油絵の具で美しいグラデーションを作ることができる。 ・絵具や溶き油の乾燥時間を踏まえて、透明な色彩を重ねて適切なグラス技法を行うことができる。 ・自画像を古典的技法で描くが、顔面だけでなく服装や背景についても表現の工夫をすることができる。	・油画用溶き油の性質と使用方法の基本を習得し、使用することができる。 ・古典的絵画の重層構造による色彩表現を理解し、制作に活かすことができる。
BIK08-1-038	入門	写映	写真・映像入門演習2	選択	1	演習	2	2Q							60	20	20		機械の目-眼差しの研究	撮影者/被撮影者の社会的立場や属性、文化的背景の相互理解などを例に、写真の中に潜む眼差しについて考察し、慣れ親しんだ視点を捉え直しながら、写真作品の制作に取り組む。同時にRAWデータの撮影、現像など、専門的なデジタル写真の制作プロセスを学び、表現に応じた写真の編集(濃度や色調のコントロールなど)について理解を深める。	【知識】写真における眼差しのあり方を様々な事例から多角的に理解し、作品を通して撮影者と被写体との関係性について思考することができる。 【態度】独自のモチーフやテーマ性をもって、計画的に作品制作に取り組むことができる。 【技能】作品表現に応じた適切な撮影、画像調整、プリント技術を理解し高いレベルで実践することができる。	【知識】写真における眼差しのあり方について理解し、作品を通して撮影者と被写体との関係性について思考することができる。 【態度】計画性をもって作品制作に取り組むことができる。 【技能】作品表現に応じた適切な撮影、画像調整、プリント技術を理解し実践することができる。
BIK05-1-029	入門	総造	総合造形入門演習2	選択	1	演習	2	2Q							40		30	30	素材と技法と道具に触れる1-素材に対する技法を知る-	造形基礎課題入門演習編。ものづくりの基礎力と知識を身につける。彫刻/立体造形領域で重要となる「型」の考え方(型取りと置き換え)についての基礎知識、用いる素材と技法のバリエーションを学んでいく。型の考え方と技法を基点とし、作業工程を俯瞰的に検討することで、完成までの構想力や実現力も併せて身につけていく。	【知識】型取りに用いる素材の特性を理解し、自身の作品表現に適した素材を適切に選択し活かすことができる。 【態度】素材・技法と積極的に向き合い、制作する工程を構想し、計画性と継続力が身に付いている。 【技能】型の仕組みを理解し、型を作成して素材の置き換え、複製することができる。さらにそれを活用して作品の発想や構想に応用することができる。	【知識】型取りに用いる素材の特性を理解し、自身の作品表現に適した素材を選択することができる。 【態度】素材・技法と向き合い、制作する工程を構想し、計画性と継続力が身に付いている。 【技能】型の仕組みを理解し、型を作成して素材の置き換え、複製することができる。
BIK03-1-020	入門	染織	染織テキスタイル入門演習2	選択	1	演習	2	2Q							40		30	30	織機を使い、基本の「組織織」を学ぶ	織の基本技法である三原組織(平織・綾織・朱子織)を織ることで、基本的な緯糸の扱い方と、織の一連の工程を習得するための授業。組織織の模様ができるように表れるのか、織機の仕組みと構造を知り、布を構成する経糸と緯糸の組織構造への理解を深める。その上で、表したいイメージに染めた色糸を使い、組織織でできる糸の重なりによる表現の多様性を知る。	・糸の扱い方や、織機の使い方を体得し、三原組織(平織・綾織・朱子織)の布を織ることができた上で、リサーチを深め、イメージに合わせた組織織ができる。 ・布を織るすべての工程を習得することを通して布の構造を理解し、ドラフト図から組織織を読み解き、自ら描くことができる。 ・糸の色や織の技法によるイメージの表れを感じ、織技法を使った表現のなかにあるおもしろさや発見し、更なる織表現を探求することができる。	・糸の扱い方や、織機の使い方を体得し、三原組織(平織・綾織・朱子織)の布を織ることができる。 ・布を織るすべての工程を習得することを通して、布が一本の糸からできている構造を理解し、ドラフト図を描くことができる。 ・糸の色や織の技法によるイメージの表れを感じ、織技法を使った表現のなかにあるおもしろさや発見できる。
BIK68-1-047	入門	ASP	アートプロデュース入門演習1	選択	1	演習	2	2Q							30	40	30		アート・ハンドリング、インストール	展示やプロジェクトを取り行う際に必要となる基礎的なハンドリング技術やインストールの作業手順を身につける。道具の正しい使い方、設置や展示、撤収時の安全かつ確実な作業の仕方など、実際のシチュエーションを想定した作業を通して実践的なスキルを修得する。絵画・立体・工芸・写真・映像などの多様な領域の作品の特性を理解した上での、鑑賞者への提示の仕方を考える。	・作品を適切に取り扱う必要性と責任を理解している。 ・展示・企画実施に必要な基本的なハンドリング・施工の技術を修得し、それを応用することができる。 ・安全かつ効率的な作業計画を立て、グループと共有し、実施することができる。	・作品を適切に取り扱う必要性と責任を理解している。 ・展示・企画実施に必要な基本的なハンドリング・施工の技術を修得している。 ・安全かつ効率的な作業計画を立て、実施することができる。

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標						
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6										
BIK99-1-067	入門	共通	美術工芸入門3	必修	1	演習	2	3Q							20	20				60	先例をまねぶ	名作や著名な研究について歴史的・社会的背景、内容、形式、構造を模倣を通して学び、自身の制作・研究の手がかりと繋がりをつくる。講義では様々な分野の作品・研究の実例を取り上げ、「まねぶ」ための分析を行う。演習では「言葉」「身体」「物質」「複製」「制度」「流通」等のテーマを元に「まねぶ」を実践する。最終的に成果物のプレゼンテーションを行い、ディスカッションやコメントを通して過去と現在の間に制作・研究の繋がりを見出す。	知識:名作や著名な研究、事象について歴史的・社会的背景、内容、形式、構造といった多様な要素から多面的に理解し、自らの言葉で説明できる。態度:与えられた条件のなかで主体的にアプローチし、グループで協力し、目的に向かって具体的な行動することができる。技能:プロトタイプ制作および実作に必要な情報を収集・整理し、的確な技法を用いて形にすることができる。	知識:名作や著名な研究、事象について歴史的・社会的背景、内容、形式、構造といった多様な要素から多面的に理解することができる。態度:与えられた条件のなかで主体的にアプローチし、グループで協力することができる。技能:プロトタイプ制作および実作に必要な情報を収集・整理し、的確な技法を選択することができる。	
BIK99-1-073	入門	共通	工芸概論	選択	1	講義	2	3Q	双方向遠隔		60	40									日本における工芸の変遷と近代化について、その展開を理解する	日本で生み出された工芸作品は陶磁、染織、金工、漆工、室内装飾、デザイン、手工芸、機械製品、民藝など多岐にわたる。こうした工芸作品は、明治維新を機に、大きな転換期を迎える。本講義では、日本独自の美意識や伝統性を踏まえ、明治以降工芸がどのように変遷し展開していったのか、西欧文化の受容、国家戦略等当時の社会的背景とともにその変遷を学ぶ。また陶芸、染織等具体的な制作活動を通して、工芸作品が我々の生活の中に文化としてどのように根付いているのか、また制作過程とその意図、工芸を取りまく様々な要素との関係性を理解し、制作者の主眼だけでなく、多角的な視点から工芸とはなにか、を考える。	「工芸」とは何か、その意義と歴史の変遷を深く理解できる。近代における工芸の特質についてを、自分自身の観点から考えや意見を述べ、自身の研究テーマにつなげて考えることができる。授業中に挙げた参考図書1冊を必ず読んで要約し、その中からテーマを見つけ深く考察し、自分の意見を記述することができる。	「工芸」とは何か、その意義と歴史の変遷を理解することができる。近代における工芸の特質についてを、自分自身の観点から考えや意見を述べることができる。授業中に挙げた参考図書1冊を必ず読んで要約し、自分の意見を記述することができる。	
BIK01-1-003	入門	日本画	日本画入門演習3	選択	1	演習	2	3Q						60	40						見るから捉えるへ、写生から絵作りを学ぶ	本授業では、写生を基にして絵画へ展開する方法を学ぶ。絵画制作の基本は観察である。まず、モチーフをしっかりと観察し、その特徴を捉えた写生を活かし絵画を制作していく。写生は必ずしも写真のようにリアルに描くことではない。また、写生をそのままトレースするだけで、絵画になるわけでもない。本課題を通じて、絵画的な視点で物事を捉えることの重要性を理解していく。	【知識】絵画制作における基礎を理解し、写生と本画の関係を確に解説できる。【態度】写真と絵画表現の違いを認識し、相互関係やその是非を理解できる。【技能】自身で観察し描写を行うことを必然の作業として体得し、実践的に絵を描ける。表現の質の向上のためにあらゆる手段を講じ、忍耐強く高い精度で制作に取り組める。【技能】絵画制作を想定した不足のない十分な写生を行い、日本画材を使用した絵画へと発展できる。	【知識】写生を通じて日本画および絵画制作における基礎を理解することができる。【態度】写真と絵画表現の違いを認識できる。【技能】自分の目で観察し、手で紙に描くことの重要性を理解し、絵を描くことができる。表現の質の向上のために忍耐強く追求することができる。【技能】写生を基にして岩絵具等の日本画材を使用した絵画へと発展させることができる。	
BIK02-1-012	入門	油画	油画入門演習3	選択	1	演習	2	3Q						20			50	30			「風景を描く」いま ここ いか	風景を描く。風景描写をとおして「今、この時」を見つめ、絵画によって表現する。瓜生山キャンパス内でエスキース、スケッチ、デッサンを現場で重ねて取材し、風景油彩へと展開する。携帯イーゼルを貸与、現地での制作を推奨する。または十分な取材がデッサンで出来ていれば、アトリエ内だけで油彩を構築することも可能。近代印象派の絵画における風景表現に関してもリサーチを行う。写真画像の使用は不可とする。画像が発明される以前に、先人がいかにイメージを構築していたかを学ぶ。	・風景画についてのリサーチ、取材スケッチ等を質・量とも充分な記録としてまとめることができる。・画面と構図を理解した上で、良い構図を意図的に導き出すために、キャンパスの縦横比S、F、M、Pを適切に選択することができる。・自分が現場で描いた本画着手のための資料やスケッチ等を的確に本制作に活かすことができる。・下地の色彩や絵具の粘性コントロール、描画材料の性質などを、筆致や行為の痕跡として適切に画面に反映させることができる。	・風景画についてのリサーチ、取材スケッチ等を一定量を持った記録としてまとめることができる。・画面と構図を理解した上で、構図を意図的に導き出すために、キャンパスの縦横比S、F、M、Pを適切に選択することができる。・自分が現場で描いた本画着手のための資料やスケッチ等を本制作に活かすことができる。・下地の色彩や絵具の粘性コントロール、描画材料の性質などを、筆致や行為の痕跡として適切に画面に反映させることができる。	
BIK08-1-039	入門	写映	写真・映像入門演習3	選択	1	演習	2	3Q						20						20	イメージを組み合わせ-実写映像の編集	実写による映像制作の行程を理解し、短編映像の完成を目指す授業。画面サイズ、フレームレート、フォーマット等、動画の技術の変遷と基本原理、多様な手法を学び、実際にカット編集を行うことで動画制作の制作行程の基本と特性を理解する。同時にモニターージュを中心とした具体的な手法を通して、写真(静止画)と映像(動画)の関連性と特性の違いを学ぶ。	【知識】カメラ操作や編集ソフトの特性に親しみ、動画制作の原理を理解したうえで制作に繋げることができる。【態度】独創的なモチーフやテーマ性をもって、計画的に作品制作に取り組むことができる。【技能】実写映像の制作工程を理解し、撮影、編集等の基礎技術を着実に運用し、作品にすることができる。	【知識】カメラ操作や編集ソフトの特性に親しみ、動画の原理についての理解を深めることができる。【態度】計画性をもって作品制作に取り組むことができる。【技能】実写映像の制作工程を理解し、撮影、編集等の基礎技術を理解・習得することができる。	
BIK05-1-030	入門	総造	総合造形入門演習3	選択	1	演習	2	3Q						20						30	50	表現の展開と深化1-領域的意識の構想-	彫刻、陶芸、現代的表現の各領域における基礎的指導を行う。それぞれに興味のある素材、技法、表現形式などからいずれかの領域を選択し、専門領域担当教員の指導のもと素材や技法、考え方を学び、制作・研究を行う。合評では各領域で学んだ習作を持ち寄り、ディスカッションを行う。領域横断的な視野を獲得し、総合造形で学ぶ入門的概念と考え方を構想していく。	【知識】選択した領域に対する基礎的な知識が身につく。【態度】事前事後学習の時間も活用して自らの興味関心を探り、今後の方向性を模索するプロセスを通して、作品表現の思考力や発想力を主体的に高めることができる。【技能】自らの発想やテーマに沿った作品制作に向けて、素材・技法・表現形式を選択することができ、制作へ十分に活かすことができる。	【知識】選択した領域に対する基礎的な知識が身についている。【態度】自らの興味関心を探り、今後の方向性を模索するプロセスを通して、作品表現の思考力や発想力を高めることができる。【技能】自らの発想やテーマに沿った作品制作に向けて、素材・技法・表現形式を選択することができる。
BIK03-1-021	入門	染織	染織テキスタイル入門演習3	選択	1	演習	2	3Q						40						30	30	繊維・布の自由な扱い方と、その可能性を知る	フェルトなどの知識や技術を学び、スピンドル、バスケットリー、マクラメ、カードウィービング、ハンドフックなど、オフルームと分類される技法についても知見を深める。それら原初的な染織技法を通して、人間が繊維と関わってきた歴史や文化史を振り返り、自身の創作に繋げていく。また、ミンシンの基本的な使い方を習得し、自由かつ創造的なツールとして、制作に柔軟に活用できることを目指す。繊維に触れる中で、手を動かすことの楽しさや繊維造形の幅広さを知る。	・原初的な染織技法であるフェルトの成り立ちや技法を十分に理解し、能動的に手を動かし、創作意欲を継続させ、自由な形状の作品を完成できる。・ミンシンの基本的な使い方を十分に理解し、基礎的な縫製ができ、そして細部にまでこだわった丁寧な作業ができる。・オフルームの知識を身につけ、繊維の多様な可能性を見出し、自身の表現に意欲的に取り組んでいる。	・原初的な染織技法であるフェルトの成り立ちや技法を理解し手を動かし、自由な形状を創作できる。・ミンシンの基本的な使い方を理解し、制作において必要な基礎的な縫製ができるようになる。・オフルームの知識を身につけ、繊維の多様な可能性を見出すことができる。
BIK68-1-048	入門	ASP	アートプロデュース入門演習2	選択	1	演習	2	3Q							50					30	20	展覧会制作	企画を構想することから、具体的な形として実施するまでに必要なプロセスを実践を通して学ぶ。小規模な展覧会を企画構想・実施することを通して、計画やスケジューリング、予算設計、総編成から、展示のデザイン、ハンドリング、展示のインストールを実際に経験する。また会期中の運営、終了後の評価に至るまでの一連のプロセスを理解し、これらを行うための基礎的な手法とスキルを身につける。	①展覧会の開催を基本に、企画から実施、評価までの一連のプロセスを理解している。②協働のための基本的なコミュニケーション、チームビルディング・マネジメントができる。③企画や構想のアイデアを、展示という具体的な形に表し、他者に向かって効果的に提示することができる。	①展覧会の開催を基本に、企画から実施、評価までの一連のプロセスを理解している。②協働のための基本的なコミュニケーション、チームビルディング・マネジメントができる。③企画や構想のアイデアを、展示という具体的な形に表すことができる。
BIK99-1-068	入門	共通	進級研究・制作1	必修	1	講義+演習	2	4Q						30	20	10	10	10	20		学びの定着-ドキュメントブックの制作	1年次の1~3Qでの学びを振り返り、ドキュメントブックを制作する。メモやノート、スケッチや写真、物資料・素材を整理、編集し、本の形としてまとめることで、2年次以降の個人の研究・制作の土台となる参考資料の完成を目指す。また専門分野の学びを、テキスト、物、イメージ等の形で表現しドキュメントブックと合わせて制作する。それらを陳列し、制作者、鑑賞者の双方向コミュニケーションを通してフィードバックを行う。	領域入門としてのプロセスと成果を高精度のドキュメントブックに定着することができる。専門技術を用いた制作物を計画性をもって完成することができる。知識:専門用語を理解し適切に文章に用いられている。態度:完成度の高い研究・制作を目指すための計画と実践がなされている。技能:講義で紹介した技術が適切に用いられている。制作物が専門技術を用いた成果として完成している。	領域入門としてのプロセスと成果をドキュメントブックに定着することができる。専門技術を用いた制作物を完成することができる。知識:基本的な専門用語が文章に用いられている。態度:完成度の高い研究・制作を目指すための計画がなされている。技能:講義で紹介したアーカイブのための技術が利用されている。	
BIK99-1-069	入門	共通	超域文化論	必修	1	講義	2	4Q	双方向遠隔		60										知を遊ぶ	毎回、学生にとって馴染み深いテーマを設定し、ものごとを美術史、考古学、社会学、思想・哲学などの複数の視点から多角的に論じていく。そのことを通じて、ひとつのことをきっかけにして関連する知識や情報を探求していくとする姿勢を育むとともに、多様な価値観や異なる世界への想像力、知的に思考することの意識を涵養する。	・ものごとを多角的に捉えるための基礎的な教養を身につけ、それを生かして自分の考えを述べる。・多様な価値観への関心や他者に対する想像力を身につけて、自らを反省的に捉える視点を獲得している。	・ものごとを多角的に捉えるための基礎的な教養を身につけ、それを他人に説明することができる。・多様な価値観への関心や他者に対する想像力を身につけている。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標		
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6						
BIK99-1-074	入門	共通	文化資源学概論	選択	1	講義	2	4Q							70	30	文化資源の価値と文化財保存修復に関する制度を知る	文化資源とは、人々が生み出してきた貴重な文化財や芸術作品だけでなく、社会・地域により異なる多様な文化、風習、伝統まで含まれる幅広い概念である。本講義では、文化資源の価値を歴史、アート、コミュニティなどの多角的な視点から検討し、その保存・修復と活用の実例を学ぶ。また、文化資源を保護あるいは活用する制度について学び、未来に受け継ぐための文化資源の保存と活用の提案を考える。	・文化資源を理解した上で、その価値を他者に伝えることができる。 ・文化資源の保存と活用に関する制度の変遷とその背景を理解し、自身の見解を持つことができる。 ・文化資源の活用について、新たな企画や提案をすることができる。	・文化資源とは何か、保存修復に関わる制度を理解し、多様な活用方法について理解することができる。 ・文化資源とは何かを理解し、説明できる。 ・文化遺産の保存修復および文化資源の活用に関わる法律・制度を理解し、説明できる。 ・多様な活用方法の事例を知り、その意義を説明できる。	
BIK99-2-075	基礎	共通	美術工芸基礎1	必修	2	演習	2	1Q							20	80	イメージの起源に迫る	視覚芸術の源泉となるイメージ(像や文様)がいつ作られ、見出されることになったのか、その起源と発展をたどる。同時にイメージの複製と流通を支えた道具や技法の発展を学ぶ。講義では、描画材、支持体、道具の起源をたどり、イメージの定着と運用の変遷を理解する。演習ではイメージを定着するための多様な技法と素材の扱い方を体験し、現在の視覚芸術との違いと関連を見出す。	【知識】イメージの起源に迫る過程において、芸術・文化の発展過程を授業内容から発展して自分なりの言葉で理解することができるようになる。 【態度】現在の視覚文化・芸術との違いと関連を見出すことができるようになるも積極的に取り組むことができるようになる。 【技能】イメージの起源を通して得た知識や見解を自身の制作や研究を独創的なものとして提示することができる	【知識】イメージの起源に迫る過程において、芸術・文化の発展過程を理解することができるようになる。 【態度】現在の視覚文化・芸術との違いと関連を見出すことができるようになる。 【技能】イメージの起源を通して得た知識や見解を自身の制作や研究へ接続することができる	
BIK99-2-081	基礎	共通	記録文化論	選択	2	講義	2	1Q							10	40	50	アーカイブ理論	今日、アーカイブという言葉はミュージアムをはじめとする様々な「記録の保管庫」を包括する概念として、また、「記録」を作成・集積すること全般を指す言葉として用いられている。本講義では、多様な含意をもつアーカイブという言葉の多様な用法と、私たちの生活や社会において「記録」が果たす役割について多角的に講じていく。	・アーカイブや「記録」について基礎的な知識と考え方を身につけ、「記録」から新たな意味や価値を生み出すことができる。 ・「記録」が社会の中で果たす役割について論理的かつ批判的に思考し、論じることができる。	・アーカイブや「記録」について基礎的な知識と考え方を身につけている。 ・「記録」が社会の中で果たす役割について論理的かつ批判的に思考し、論じることができる。
BIK01-2-004	基礎	日本画	日本画基礎演習1	選択	2	演習	2	1Q							40	30	30	日本画材の特性を利用する	本授業では、日本画材料の色材の多様性と特性を丁寧な解説を交えながら実習を通して質感の多様性を活かしたマチエール表現を行っていく。日本画材料は他の絵具と違い、色だけでなく質感を伴うことが特徴である。それぞれの特性を理解して技法材料を使い分けることで、これからの自身の表現の幅が格段に広がる。学んだ内容は一冊の技法材料ファイルとしてまとめ、今後の制作において感覚だけに囚われない、知識や思考力を伴った、多様な表現につなげていく足掛かりとなる授業である。	【知識】日本画材料それぞれの特性を熟知したうえで使用でき、それを的確に他者に解説することができる。 【態度】表現の追求のためにマチエール研究を必然のものとして時間と資材を惜しむことなく使い、作業に没頭することができる。 【技能】表現のための適切な技法材料を選択し、それを使用したマチエールを作ることができる。さらにそのマチエールを発展させ独自の絵画制作につなげることができる。	【知識】日本画材料それぞれの特性を他者に説明することができる。 【態度】自己表現のためのマチエール研究の重要性を理解し、表現を豊かにするために、時間を惜しまず追求することができる。 【技能】自己表現のために適切な技法材料の選択とマチエール表現をすることができる。
BIK02-2-013	基礎	油画	油画基礎演習1	選択	2	演習	2	1Q							20	60	20	「100ドローイング」現代表現研究1	さまざまな素材や描画材料に出会い、100枚以上のドローイング制作を行う演習課題。リサーチから興味を持った作家や、作品の制作手法などを元にして手を動かして、定着する。映像や画像等の資料から過去から現在に至る作家／制作者としての生き方を学ぶ。そして各々の表現の可能性を広げるために、多様な表現形式や材料、支持体などを用い100枚超えを目標としたドローイングのワークショップを行う。ここでは特に1年次の通底課題であった、見えるものをなぞる手法に加え画面そのものに着眼し選んだ描画材や支持体から今後の展開となるきっかけを導き出す。	・様々な制作手法や作家の生き方から学びを深め、自身の制作に応用する方法論について美術史から参照できる。 ・様々なドローイング手法と実験を試み、アイデアを形にすることやアイデア自体の定着に着手することができる。 ・ドローイングのワークショップを通して、未知の手法や工夫に触れ自身の制作に応用展開ができる。	・様々な制作手法や作家の生き方学ぶことにより、自身の制作に対する方法論について考えることができる。 ・様々なドローイングを試み、アイデアを形にすることやアイデア自体を発見することができる。 ・ドローイングのワークショップを通して、未知の手法や工夫に触れ自身の制作に活かすことができる。
BIK08-2-040	基礎	写映	写真・映像基礎演習1	選択	2	演習	2	1Q							30	30	40	光を記録する-写真原理と印画技法	光の現象を物質的に記録(印画)するというアナログ写真の原理を体験し、フィルムカメラによる撮影、現像、暗室プリントといった写真のアナログプロセスを学ぶ。慣れ親しんだデジタル写真におけるイメージの即時性や拡散性との違いを理解し、アナログプロセスを用いたイメージメイキングの今日的な表現と運用の可能性について実践を通して考察する。	【知識】フィルムや印画紙といったアナログ写真の基本原則や制作プロセスを理解することができ、且つデジタル写真との原理の違いを理解することができる。 【態度】写真暗室のルールを理解し、計画性と適切な使用による制作を一人で行うことができる。 【技能】専門機材、薬品を適切に用いたプリントの制作を高いレベルで行うことができる。	【知識】フィルムや印画紙といったアナログ写真の基本原則や制作プロセスを理解することができる。 【態度】写真暗室のルールを理解し、適切な使用による制作を一人で行うことができる。 【技能】専門機材、薬品を適切に用いた基礎的なプリントの制作を行うことができる。
BIK08-2-041	基礎	写映	写真・映像基礎演習2	選択	2	演習	2	1Q							20	60	20	人間の語りを記録する-映像記録における真実性とフィクション性についての考察	人間による語りや態度を映像化するプロセスを通して、目的に応じた撮影環境と機材の選定、及び適切な録音の方法と工程を学ぶ。またカメラを前にした人の動作(発話や振る舞い)とアプリケーションによるカット編集の技術、特性を理解し、撮影者側/被撮影者側の双方の視点から、映像記録における真実性とフィクション性について考察を深める。	【知識】人を対象とした映像記録やインタビューの様々な事例とその効果を知り、テーマや対象に応じた制作手法を理解することができる。 【態度】被撮影者の文化的背景や社会的立場の理解が、映像作品の質やコンセプトにどのように関与するかを、制作を通して積極的に考察することができる。 【技能】目的に応じた撮影環境、機材の選定ができ、それらを生かした作品制作を行うことができる。	【知識】人を対象とした映像記録やインタビューの様々な事例を知り、基本的な制作手法を理解することができる。 【態度】被撮影者の文化的背景や社会的立場の理解が、映像作品の質やコンセプトにどのように関与するかを、制作を通して考察することができる。 【技能】目的に応じた撮影環境、機材の選定ができる。
BIK05-2-031	基礎	総造	総合造形基礎演習2	選択	2	演習	2	1Q							20	50	30	技法の展開2(デジタルイノベーション)-現代への視座-	デジタルファブリケーションでの3Dモデリング、レーザー加工、データ作成/ベクタとラスターの理解などを通して、デジタル技法を活用した表現の基本的な考え方やその拡張方法を学ぶ。現代の造形表現で用いられる技法を幅広く探究し身につけることで、その視座を獲得する。技法や素材、考え方において、異なる時代背景のインターフェイスを見出し、新たなクリエイティビティを生み出す柔軟な造形思考を構築する。	【知識】必要とされるソフト/ハードの理解と基本的な操作手法やデータ作成が身につく、その知識を制作へ充分に応用することができる。 【態度】授業時間と共に事前事後学修時間を活用し、デジタル技法や知識のバリエーションを広げるための取り組みを主体的かつ活発にできる。 【技能】時代背景の異なる考え方をつなぎ合わせる柔軟な造形思考を構築し、現代的技法に熟練することで作品制作を高度に発展させることができる。	【知識】必要とされるソフト/ハードの理解と基本的な操作やデータ作成が身につけている。 【態度】授業時間と共に事前事後学修時間を活用し、デジタル技法や知識のバリエーションを広げるための取り組みができる。 【技能】時代背景の異なる技法や素材、考え方向士を繋ぎ合わせる柔軟な造形思考を構築し、作品制作ができる。
BIK05-2-032	基礎	総造	総合造形基礎演習3	選択	2	演習	2	2Q							20	20	60	陶芸演習-自然摂理・他者との協働-	陶芸特有の素材や、技法、また歴史的背景など基礎的学びを修得する。この授業は、陶造形の基礎演習や夏期に予定する黒田村アートビレッジでの穴窯焼成実習(学外演習)に向けての作品制作を行う。また仲間と協働し実習の計画や準備を行う。陶芸制作や仲間と共に実習の計画を立てるプロセスにおいて、自然摂理あるいは他者との協働し、それぞれの特性を認識・尊重し、柔軟な発想で対応する能力を深め、協働性を養う。	陶芸素材の特性を理解し、基礎的な技法を身につけ、その成果を作品制作に十分に活かすことができる。 陶芸の基礎的な技法を習得するため、授業時間とともに事前事後学修時間を十分に活用した取り組みができる。 学外演習に向けた計画・準備において仲間との協働し、リレー格となって積極的に取り組むことができる。	陶芸素材の特性を理解し、基礎的な技法を身につけている。 陶芸の基礎的な技法を習得するため、授業時間とともに事前事後学修時間を活用した取り組みができる。 学外演習に向けた計画・準備において仲間との協働し、積極的に取り組むことができる。
BIK03-2-022	基礎	染織	染織テキスタイル基礎演習1	選択	2	演習	2	1Q							40	30	30	糸素材の扱い方と染料調色を知り、基本的な糸染めの方法を学ぶ	繊維に綿、ウール、麻などさまざまな素材の糸が使われるのは、使用する素材と糸染めによって、織り上げた布のテクスチャーや色味が変わり、表現の幅が大きくなるからである。この授業では、織作品を制作するにあたり、重要な基本的な要素となる糸を自在に扱うため、ウール糸(動物性繊維)の染色知識と素材の質感への感覚を重点的に培う。	・素材の違いによる染料・助剤の扱い方について深く知り、化学変化としての染色を理解できるようになる。 ・それぞれの素材が持つ質感への感覚を研ぎ澄まし、織るための素材としてイメージに合った繊維を選択できるよう、多くのサンプルを作成できる。 ・あらかじめ表現したい色と質感のイメージを持ち、染める前から予測ができ、構想通りの色に染められるようになる。	・繊維に使用するさまざまな素材でできた糸を、素材に合わせた適切な手法で扱うことができる。 ・織物の織物を織るために、自由な構想で下絵を描き、使用する糸をイメージに合わせて色に染めることができる。 ・使用する素材により、織りあがる色味やテクスチャーが変わることが理解できている。

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標		
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6						
BIK03-2-023	基礎	染織	染織テキスタイル基礎演習2	選択	2	演習	2	1Q							40		30	30	「綴織」の基本的な織り方と特徴を学ぶ。 西陣織にも使われる「綴織」の基礎的な技法と知識を習得する。綴織領域のなかでも最も自由に絵画的な表現をすることが可能である綴織技法の特性を用いて、構想したイメージで作品を織る。そのための下絵の元になるスケッチを描き、草稿を練ることに重点を置く。綴織を学ぶことは、織機を使った表現の多岐に渡る可能性を知ることに関わり、しなやかな思考を養う。	・緯糸による表現である「綴織」の技法と知識を習得することができ、織物の幅広い表現を知ることができる。 ・織技法のなかでも、自由に絵画的な表現をすることが可能である綴織技法を学ぶことで、自身の持つ豊かなイメージを織技法であらわす方法を身につけることができ、織による絵画的表現が構想できる。 ・さまざまな緯糸の繋ぎ方を体得し、美しく描くような綴織の技術を応用して、素材や技法の表現の幅を広げて制作することができる。	・緯糸による表現である「綴織」の技法と知識を習得することができる。 ・織技法のなかでも、自由に絵画的な表現をすることが可能である綴織技法を学ぶことで、自身の持つ豊かなイメージを織技法であらわす方法を身につけることができる。 ・素材や技法の表現の幅を広げて制作することができる。
BIK68-2-049	基礎	ASP	アートプロデュース基礎1	選択	2	講義	2	1Q						20		50	30	芸術文化と公共性 芸術文化における公共性をプロデュースの観点から学ぶ。展覧会やイベントの広報戦略、目的や対象の設定、情報発信の方法などを学ぶとともに、教育普及(ラーニング)、地域連携(コミュニティー)、批評・記事執筆などの広義でのパブリック・リレーションズ活動が公共性およびアートと社会とのコミュニケーションにどのような役割を果たしているかを知り、文化的価値の共有や社会的意義の創出・可視化の意義を理解する。	①社会や他者との関係を通して価値や意義が創出されることを理解でき、他者に説明することができる。 ②価値や意義を創出し、共有・可視化する方法論を知識として身につけて、企画などで具体的に形にできる。 ③仲介に必要となる思考力とコミュニケーション力、倫理観を身につけて、企画書等で表現することができる。	①社会や他者との関係を通して価値や意義が創出される事例を知識として知っている。 ②価値や意義を創出し、共有・可視化する方法論を身につけている。 ③仲介に必要となる思考力とコミュニケーション力、倫理観を身につけている。	
BIK78-2-056	基礎	歴史	歴史遺産学基礎演習1	選択	2	講義・演習	2	1Q						50			30	20	歴史遺産の調査研究において、モノの観察や保存管理・展観技術、実測・測量は基礎的かつ重要な作業に位置づけられる。本授業では考古・地理学ならびに民俗学分野を中心に、講義を通して実測・測量の原理や歴史的経緯、また調査に関する基礎的知識を得るとともに、演習を通してそれらを実践し基本的技術を身に付けることを目的とする。	知識・講義を通して地理・考古・民俗学分野を中心とする調査の基本的技法について理解することができる。 態度・講義・演習を通して、各種調査技法の原理や意義を把握し、それらを自分の言葉で説明できる。 技能・演習を通して、遺跡や土地、有形無形の民俗文化財等について、計測・記録等の基本的手法を身に付けるとともに、得られた成果・記録(調査)を適切に提示するとともに、問題点・改善点を客観的に把握できる。	知識・講義を通して、地理・考古・民俗学分野を中心とする調査の基本的技法について理解することができる。 態度・講義・演習を通して、各種調査技法の原理や意義を把握し、それらを自分の言葉で説明できる。 技能・演習を通して、遺跡や土地、有形無形の民俗文化財等について、計測・記録等の基本的手法を身に付けるとともに、得られた成果・記録(調査)を適切な形で提示することができる。
BIK78-2-057	基礎	歴史	歴史遺産学基礎演習2	選択	2	講義・演習	2	1Q								30	10	60	文献史料講読演習 本講義では、近世における名所図会、寺院や市井に関する様々な文献史料を取り上げ、読解力の基礎を身に付ける。また、茶道具を用いて、その取扱い、調査方法等の基礎を身に付ける。演習では主題を設定し、史料調査方法、史料を多角的に読み解きその歴史的背景を考察し、まとめる力を身に付ける。また保管・展示等を想定し、史料を美術工芸品として設える手法についての基礎について実践を通して学ぶ。	・史料とは何か、という基本的な知識を身に付け、史料を読むための基礎的な力を修得する。 ・近世の古文書の形式を理解し、内容を読解するための力を修得する。 ・史料調査方法の基礎を学び、様々な史料を活用する手法を修得する。 ・演習を通して、保管や展示等を想定し、茶道具を中心とした美術工芸品についての基本的な取り扱いを修得する。	・史料とは何か、を理解し、その価値についてを自身のことばで説明することができる。 ・近世における古文書の基本的な形式を理解し、その内容を読み取ることができる。 ・史料の概要をまとめ、その歴史的背景を考察することができる。 ・演習を通して、茶道具を中心とした美術工芸品についての基本的な取り扱いができる。
BIK99-2-076	基礎	共通	世界芸術史	必修	2	講義	2	2Q	双方向 遠隔					60		20	20	人類誕生から今日に至る「芸術」の変容の歴史を辿り、芸術という観点から各時代の人々の日々の営みや社会情勢を俯瞰することを通して、人間や社会の本質を洞察する力を養う。各時代、各地域において様々な形で育まれてきた文化の「ちがひ」と「つながり」を芸術作品の中に見出し、過去の積み重ねの先にある未来の芸術活動の知的基盤を育てていく。	創作活動のみならず歴史的・哲学的なアートへの眼差しをもとに、人や社会の辿る過去と現在のつながりを理解し、未来に向けて思考を展開することができる。さらに、それらの知識を活かし、自身の研究・制作に繋げた具体的なプランを組み立てることができる。	創作活動のみならず歴史的・哲学的なアートへの眼差しをもとに、人や社会の辿る過去と現在のつながりを理解し、未来に向けて思考を展開することができる。	
BIK01-2-005	基礎	日本画	日本画基礎演習2	選択	2	演習	2	2Q						40		30	30	本授業では、先人達の作品を参照しながら人物制作の基本を学ぶ。前半は人体のパーツごとに着目し、その表現方法を探り、後半では、それらを参照しモデルを使ったクロッキーを中心に制作し全体の動きを捉えていき、最初はどうしてもモデルから目が離れてしまいがち、描くことに集中してしまうが、焦らずゆっくり描く前にモデルを記憶するように観察していく。慣れてくると目と手が一体になり、自分の感情を線や面に託すことができるようになる。後半には動くポーズを捉える、自由な線が引けるようになることを目指し、学んでいく。	【知識】人体構造を理解し、絵画表現に必要な筋肉や骨格に關して的確な説明ができる。画材の特性を理解し、表現技法に応じて適切に使用できる。 【態度】先人の表現から貪欲に学び、モデルに最大限の敬意を払い制作を行える。積極的に取り組み、人体のムーブマンを的確に把握できる。 【技能】人体の構造を完璧に把握した上で動勢を捉え、的確に表現できる。完成作品を想定した的確な画材選択を行い独自の表現に昇華できる。	【知識】人体構造の基礎を理解できる。また、使用する画材(墨、鉛筆、木炭、コンテ、パステル等)が自由に使用できるようになる。 【態度】先人の作品を真摯に学び、モデルを使った際には、モデルに敬意を払いながら制作を行いムーブマンを見つけることができる。 【技能】人体の構造を把握し動勢を捉えることができる。作画の際には対象をより良く捉えるために画材を的確に選択し表現できる。	
BIK01-2-006	基礎	日本画	日本画基礎演習3	選択	2	演習	2	2Q							40	30	30	本授業では人や動物等動くものを対象にした制作を行う。制作のために、古人は日がな一日鳥や魚を見つめていたと言われていたが、決して写生等をするために手を動かしたりはせず観察に特化していたようである。意識の中に物のイメージを強く持つには良く観るとい事が制作の第一歩になりませんが動く対象に關してはそれ以上の観察が必要になる。授業においても先ずは慌てず時間をかけて観察し対象の特徴やクセを探っていく。これを実践する事で自身の物の見方が養われて行くことに繋がる。これら観察を通して上で対象を描くことで対象を本物以上に生きた絵に見せる手段を培っていく。	【知識】観察を通じて対象の特徴を認識し、さらにその観察で得た情報を的確に説明することができる。 【態度】観察を習慣化することで独自の見解や視点に気づき、深めることができる。 【技能】自身の目で対象を観察し絵画として本物以上に「生きた」表現ができるだけでなく、作品を通じて鑑賞者の感情も喚起させることができる。	【知識】ものを観察する事によって対象が持つ特徴等を認識することができる。 【態度】観察を繰り返すうちに自分独自の見え方や考え方に気づく事ができる。 【技能】自身の目を通した観察から対象を本物以上に「生きた絵」にすることができる。	
BIK02-2-014	基礎	油画	油画基礎演習2	選択	2	演習	2	2Q						20		20	20	作品の支持体として木製パネルを制作し、そこに綿布下地を施し、アクリルメディウムによる転写を行う。美術史における図像の変遷を学び、内容や形式の多様なあり方を参考に転写する図像選択に役立て、自身の制作に応用する。その際に描画とは異なる引用やデータ作成などに取組み、描かず画面と内容をコントロールする手法として転写する。絵作りと作品化について、演習1課題よりさらに深く自立と言語化に着手し、プレゼンテーションまで含めた展開をする。	・美術史におけるイメージの変遷を学ぶことで、自身の制作との接点を探り、参照元を明確に応用することができる。 ・コンセプト(概念・企画)に重心を置いた制作を行うことにより、今後のテーマ設定やメディア選択の幅に合わせた柔軟なメディア選択ができる。 ・支持体制作とアクリルメディウムを使用した転写の実践からコラージュ、コンパイン、アッサンブラージュなどの手法と作品解釈ができ、工具や技法の使用と応用ができる。	・美術史におけるイメージの変遷を学ぶことで、制作との接点を探り、応用することができる。 ・コンセプト(概念)に重心を置いた制作を行うことにより、その後のテーマ設定やメディア選択の幅を広げることができる。 ・支持体制作とアクリルメディウムを使用した転写の実践からコラージュ、コンパイン、アッサンブラージュなどの手法と作品解釈ができる。	
BIK08-2-042	基礎	写映	写真・映像基礎演習3	選択	2	演習	2	2Q							30	30	40	人間の眼や手による観察・記録と、カメラやマイク等の機材を通した観察・記録の違いを理解し、観察手法を表現へと展開する方法を学ぶ。自身のテーマ・関心を元に具体的な被写体となる人物や場所、現象等を導き出し、一定時間をかけて観察を行う。観察プロセスは写真、映像技術を中心に視覚化し、それらを選定、編集することを通して作品を完成させる。	【知識】観察行為をベースとした様々な作品事例を知り、ドキュメンタリー表現の社会的影響・効果を理解することができる。 【態度】自身のテーマ・関心を他者の中に見出し、制作やリサーチなどの具体的な行動に繋げ、計画的に制作を進行することができる。 【技能】動く被写体の撮影・録音、編集を適切な方法で行うことができ、技術を用いて高いレベルの作品として完成することができる。	【知識】観察行為をベースとした様々な作品事例を知り、それらの内容、手法を理解することができる。 【態度】自身のテーマ・関心を他者の中に見出し、制作やリサーチなどの具体的な行動に繋げることができる。 【技能】動く被写体の撮影・録音、編集を適切な方法で行うことができる。	
BIK05-2-033	基礎	総造	総合造形基礎演習1	選択	2	演習	2	1Q							30	20	50	この授業では「用途のあるもの」をテーマに、実際に使用できるカトラリーやテーブルウェアを中心として、木や鉄や土、プラスチックなど、さまざまな素材を用いそれらを加工する技法を学びながら制作していく。素材と技法のバリエーションを増やし、テーマを持って制作することにより、デザインの観点も取り入れた感性と応用力を身につける。	【知識】多様な素材と技法の特性を理解したうえで、目的と用途に沿った適切なものを選択することができる。 【態度】デザインの観点から、具体的な用途・身体感覚を合わせた構想力と応用力が十分に身につけている。 【技能】物をリサーチし、形状、色彩、素材、使用感など、様々な観点から情報を得ることができ、観察力と感性を高めるための行動を率先してできる。	【知識】素材と技法それぞれの特性を理解し、目的や用途に沿った検討をすることができる。 【態度】デザインの観点も取り入れた構想力と応用力が身につけている。 【技能】様々な素材・技法に対して多角的な関心を持ち、リサーチ情報を得ることができる。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標				
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6								
BIK05-2-034	基礎	総造	総合造形基礎演習4	選択	2	演習	2	2Q							20		30	50	表現の展開と深化2 -領域的意識の探求-	彫刻、陶芸、現代的表現の各領域における探求的指導を行う。 3つの領域よりそれぞれに興味のある素材、技法、表現形式などからいずれかを選択し、専門領域担当教員の指導のもと素材や技法を学び、制作・研究を行う。領域横断的な視野を獲得し、総合造形で学ぶ基礎的概念と知識を探究していく。 表現をより深化させるため、自作についての分析・言語化や、プランニング、プレゼンテーションについても併せて学んでいく。	【知識】発想やテーマに沿った作品制作に向けて、素材・技法を選択し、十分な検討を踏まえたプランニングを完成できる。 【態度】今後の方向性を模索するプロセスから、思考力や発想力を高め、作品の探求をより深めることができる。 【技能】自らの興味・関心について分析的な視点から言語化し、プレゼンテーションを作成した上で発表の機会へ十分に活かすことができる。	【知識】発想やテーマに沿った作品制作に向けて、素材・技法を選択し、プランニングを始めることができる。 【態度】今後の方向性を模索するプロセスから、思考力や発想力を高めることができる。 【技能】自らの興味・関心について分析的な視点から言語化し、プレゼンテーションを作成できる。	
BIK03-2-024	基礎	染織	染織テキスタイル基礎演習3	選択	2	演習	2	2Q						30	50		20		テキスタイルプロダクトの販売企画による社会参画を実践する	テキスタイルプロダクトの販売企画について学ぶ。制作して終わりではなく、社会へテキスタイル商品を届けるまでの一連の流れを体験する。マネジメント、プロモーション、売上管理、パッケージデザイン、オンラインショップ運営などのチームに分かれ、オンライン販売や対面販売を実践する。自身の制作物をプロジェクトとして倫理観を持って社会に発信することを学ぶ。	・販売を通して消費者とコミュニケーションし、社会参画する力を身につけ、自身の制作に活かすことができる。 ・マネジメント、プロモーション、売上管理、パッケージデザイン、オンラインショップ運営などの各々の役割に対し責任を持って臨み、販売までの一連の流れを理解したうえで、自身の役割を主体的に担うことができる。 ・自身の制作物に対しての多角的な視野を持ち、能動的に社会に向けて発信しテキスタイルプロダクトを取り巻く多様な価値観を提示できる。	・販売を通して消費者とコミュニケーションし、社会参画する力が身についている。 ・マネジメント、プロモーション、売上管理、パッケージデザイン、オンラインショップ運営などの各々の役割に対し責任を持って臨み、販売までの一連の流れを理解できる。 ・自身の制作物に対しての多角的な視野を持ち、能動的に社会に向けて発信しテキスタイルプロダクトを取り巻く多様な価値観を見出すことができる。	
BIK03-2-025	基礎	染織	染織テキスタイル基礎演習4	選択	2	演習	2	2Q						40			30	30	「型染」での多色の模様染めを学ぶ	・伝統的な染色道具である型紙の特性と基本的な使い方理解し、さらに応用的な使い方を実践することができる。 ・スケッチによる導入から、型紙作成を想定した草稿、配色図案、型紙を彫るまで、すべての工程を理解し、自身のイメージを染色の技術を持って意欲的に表現できる。 ・染料を調色し、能動的に体を動かした染作業を繰り返すことで、染色技術の向上を実感することができる。 ・染色技術を体得することで新しいテキスタイルプロダクトの制作に積極的に挑戦できる。	伝統的な染色道具である型紙の特性と基本的、応用的な使い方を理解できる。 ・スケッチによる導入から、型紙作成を想定した草稿、配色図案、型紙を彫るまで、すべての工程を理解し、自身のイメージを染色の技術を持って意欲的に表現できる。 ・染料を調色し、能動的に体を動かした染作業を繰り返すことで、染色技術を体得することができる。 ・テキスタイルプロダクトの制作ができる。		
BIK68-2-050	基礎	ASP	アートプロデュース基礎2	選択	2	講義	2	2Q						50			30	20	社会調査法	研究や評価に必要な調査の手法を理解し、それらを実際に行うためのスキルを身につける。アート業界や社会の動向・ニーズの分析、プログラムやプロジェクトの評価など、アートプロデュースやマネジメントにおけるリサーチの必要性を理解しながら、調査の設計、データ収集、分析、考察・評価、報告書作成といったリサーチのプロセスを学ぶ。	①社会調査および研究に必要なリサーチの基本的な手法を身につけ、実際の調査に応用できる。 ②調査を行う上で必要なマナー、手続きを身につけ、実際の調査計画を立てられるようになる。 ③社会における芸術文化の状況を踏まえた上で、リサーチを通してその価値や課題を明らかにし、他者に説明できるようになる。	①社会調査および研究に必要なリサーチの基本的な手法を身につけている。 ②調査を行う上で必要なマナー、手続きを理解している。 ③社会における芸術文化の状況を踏まえた上で、リサーチを通してその価値や課題を明らかにできる。	
BIK68-2-051	基礎	ASP	アートプロデュース基礎演習1	選択	2	演習	2	2Q						30			30	40	プロジェクト(社会実装)構想	アートプロデュースの専門性を総合的に活用し、自らの力によって価値を生み出すために、企画を学生自ら構想する。実社会における課題をリサーチに基づいて学生自ら見出し、その課題にアプローチする企画を構想する。企画を実施するにあたって、企画書の作成、予算計画と管理、スケジュール、パブリック・リレーションズの計画、評価の方法を設計する。社会の課題を見出す問題発見能力と、課題にアプローチする企画構想力、問題解決能力を高める。	①社会におけるアートプロデュースの必要性、有用性を理解できている。 ②クライアントの課題を明確にする調査・分析能力、課題解決の方法を企画する思考力、構想力が身についている。 ③当事者意識を持って課題に取り組む責任感が身についている。	①社会におけるアートプロデュースの必要性、有用性を理解できている。 ②クライアントの課題を明確にする調査・分析能力、課題解決の方法を企画する思考力、構想力が身についている。 ③当事者意識を持って課題に取り組むことができる。	
BIK78-2-058	基礎	歴産	歴史遺産学基礎演習3	選択	2	講義+演習	2	2Q									30	30	40	文化財総合調査演習	【講義】石造文化財の種類、素材・構造、歴史の変遷、劣化状態、修復方法についての研究方法論を学び、各種分析や修復方法の基礎を身につける。 【演習】社寺等における石造文化財の素材・構造・銘文などについて調査し、資料化するための基礎観察力を身につける。	・材質や銘文等資料的特徴を的確に分析し、記録をまとめることができる。 ・保存に関する劣化のメカニズムを十分に理解し、適切な分析法を導き出すことができる。 ・保存修復計画・調査作成において、ディスカッションを通して他者の意見をまとめることができる。	・社寺や石造文化財を対象として、素材や銘文等資料的特徴を理解し、歴史文化調査の技術を身に付けることができる。 ・各種文化財の保存に關して劣化のメカニズムや各種分析法の基礎理論を理解することができる。 ・保存修復計画・調査の作成を行うこと等を通して、文化財学の方法の基礎を身につけることができる。
BIK99-2-077	基礎	共通	アート・マネジメント論	必修	2	講義	2	3Q	双方向 遠隔					20	20	60				アート・マネジメントとはアート(文化芸術)と社会をつなぐ様々な取り組みを包括する考え方のその実践である。本講義では、博物館、美術館、劇場、ギャラリー、オルタナティブ・スペース、アートプロジェクト、アートNPOなど、国内外のさまざまな実践事例を通じてアートマネジメントの歴史と現状について概観するとともに、文化芸術に関わる事業やプロジェクトの運営、組織、財政管理等を学ぶことを通して、文化芸術の社会における役割と政策や経済との関わりについての基礎的な知識と考え方を修得する。	文化芸術と社会の関わりを文化政策や歴史、また経済の側面(事業やプロジェクトの運営、組織、財政管理)から捉えるための基礎的な知識と考え方を身につけ、未来に向けて文化芸術活動の持続可能性を確保するためのプロジェクトを思考することが出来る。	文化芸術と社会の関わりを文化政策や歴史、また経済の側面(事業やプロジェクトの運営、組織、財政管理)から捉えるための基礎的な知識と考え方を身につけている。	
BIK99-2-078	基礎	共通	美術工芸基礎2	必修	2	演習	2	3Q							30	40		30		研究・制作と社会への接続	個人的な動機に根ざした研究・制作という営みが、どのような過程や媒体を経て社会に接続しているのかを学ぶ授業。講義では資料の保存やアーカイブの始まり、観客の起源、キュレーションや出版等の具体例をたどりながら、研究・制作が社会化する過程と変遷を理解する。演習では研究・制作の今日的意義、社会的役割と機能について探究し、未来に向けた保存や発表手段、媒体の考案を目指す。	【知識】専門性をもった制作・研究が社会にどのように接続され、相互に発展してきたかを理解し、言葉と図を用いて説明することができるようになる。 【態度】過去から現在に至る、芸術と社会とを結ぶ手法、メディア、キュレーションについて積極的に調査・リサーチを行い、課題に接続することができる。 【技能】授業を通して得た知識や見解を、自身の制作や研究へ接続し、新しい発想や知見をもった成果に繋げることができる。	【知識】専門性をもった制作・研究が社会にどのように接続され、相互に発展してきたかを理解し、言葉と図を用いて説明することができるようになる。 【態度】過去から現在に至る、芸術と社会とを結ぶ手法、メディア、キュレーションについて積極的に調査・リサーチを行い、課題に接続することができる。 【技能】授業を通して得た知識や見解を、自身の制作や研究へ接続し、新しい発想や知見をもった成果に繋げることができる。
BIK01-2-007	基礎	日本画	日本画基礎演習4	選択	2	演習	2	3Q								30	40	30	【現実以上のリアリティを導き出す】	本授業では写真やデジタルデバイスでは決して捉える事のできない、モチーフがもつ「リアリティ」や「それらしさ」を表現することを目的に絵画制作を行う。モチーフや描く対象物を観察している際、特にそれらが動いた時にその構造がはっきり見えることがあり、そのことが感動に繋がる。また、瞬間の動きの中にその本質が見えることもあり、客観的なイメージを超えて、現実以上のリアリティを感じる事ができる。写生をする際に、容易な手段として静止しているものを描こうとしてしまうが、固定観念からの解放を実行していくことで、より豊かな制作に繋げることが出来る。	【知識】「リアリティ」や「それらしさ」を表現するための多様な表現についての的確に認識し、絵作りにつなげる方法を理解し説明ができる。 【態度】写真に頼ることなく三次元のモチーフを二次元に変換するための観察を行い、観察から得た情報を的確に手に伝え絵画として表現するために真摯に制作に取り組みめる。 【技能】観察から得た「リアリティ」を独自の表現で描き切り、精度の高い絵画を完成させることができる。	【知識】作品における多様な表現が生み出す「リアリティ」や「それらしさ」について認識し、絵作りにつなげる方法を理解することができる。 【態度】写真を使わず自身の目を通した観察によって、情報収集を行うことができる。また自身の手を使って、観察した内容を表現できる。 【技能】自身が感じる「リアリティ」を絵画で表現することができる。	
BIK02-2-015	基礎	油画	油画基礎演習3	選択	2	演習	2	3Q						30			50	20	「版画」 間接技法研究	間接技法の一つである版画の実習を行う。版表現は絵画の表現形式の一つであり、多くの下準備や逆算した工程を身につけていく必要がある点で直接技法と大きく異なる。ここでは画像や図像などの図柄の定着だけでなく制作工程から得られるアイデアを版により具現化し、刷り〜エディション〜サインの工程まで各自が行う。実習を通して版の素材とテクスチャについて考えると同時に、そのプロセスから画面の成り立ちと構造を知り、間接表現の可能性を探る。	・版種の素材とテクスチャについて学びを深めることで、直接描法との違いを知り複数の使い分けができる。 ・専門の道具や技術を扱う中で、企画から実現まで逆算したプロセスを導き出し作品化できる。 ・経緯と実験を経ることで得られる表現と計画性の大切さを理解した上で、量的な作品展開ができる。	・版の素材とテクスチャについて学ぶことで、直接描くこととの違いを知ることができる。 ・専門の道具や技術を扱う中で、新たな知識と表現の幅を広げることができる。 ・プロセスを経ることで得られる画面構造と計画性の大切さを理解し作品に活かすことができる。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標		
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6						
BIK08-2-043	基礎	写映	写真・映像基礎演習4	選択	2	演習	2	3Q						30		40	表現としてのプリント・イメージの物質化を探究する	写真作品における物質的な質の向上と、イメージの強度の追求について、画像調整とプリント実践を通して学ぶ。写真イメージの支持体となるプリント用紙・素材の研究を行い、支持体とプリント技法、データと出力機との相性・関係性の理解を深める。また一連の制作プロセスを理解した上で、撮影データの調整技術をレベルアップさせ、完成イメージを逆算した制作工程を理解する。	【知識】デジタルプロセスとアナログプロセスによる原理の違いを構造的に理解し、自らが用いる技法・技術について説明することができる。 【態度】写真プリントの質の基準を理解し、自らが質を追求しながらプリント作品を仕上げるができる。 【技能】サンプルデータを活用し、支持体、プリント技法、イメージの関係を調整しながら作品を完成させることができる。	【知識】デジタルプロセスとアナログプロセスによる原理の違いを構造的に理解することができる。 【態度】写真プリントの質の基準を理解し、自らが質を追求しながらプリント作品を仕上げるができる。 【技能】支持体、プリント技法、イメージの関係を理解し適切な操作ができる。	
BIK08-2-044	基礎	写映	写真・映像基礎演習5	選択	2	演習	2	3Q					20		40	20	表現としてのアートブック・イメージの物質化を探究する	写真、映像を中心としたイメージを用いた表現手段のひとつとして、アートブック制作を行う。写真の大きな特性のひとつとして、物質性と流通性がある。データを作成し、印刷し、組んだり、束ねたりといった作業を繰り返すことで、制作の一連の流れを理解し、主題と形式、デジタルデータと印刷の相互作用について学ぶ。また多様な編集方法、プリント技術に接し、表現方法の選択肢を増やすことを目指す。	【知識】複製メディアである写真の流通性と物質性について理解し、且つアートブック制作のプロセスと流通のあり方を理解することができる。 【態度】計画性をもって主体的に制作に取り組み、作品を質を追求することができる。 【技能】表現媒体に合わせた適切な印刷データを作ることができ、作品に反映させるための調整技術を身につけることができる。	【知識】複製メディアである写真の流通性と物質性について理解することができる。 【態度】計画性をもって主体的に制作に取り組みすることができる。 【技能】表現媒体に合わせた適切な印刷データを作ることができる。	
BIK05-2-035	基礎	総造	総合造形基礎演習5	選択	2	演習	2	3Q					40		30	30	素材と技法と道具に触れる2-道具を用いて精度を上げる-	造形基礎課題基礎演習編。ものづくりの基礎力と知識を身につける。金属、木工など立体造形の工学的知識と技術が求められる素材・技法の基礎を学ぶ。工場の工作機械や大型機械、道具などの使い方と、それらを適切に使用することによってものづくりの精度を上げていく方法を身につける。作業工程を俯瞰的に検討し学ぶことで、完成までの構想力や実現力も併せて身につけていく。	【知識】加工方法、基礎技術を理解し作業目的に適切な道具・機械を使い分け、正しく使用する事ができ、作品制作を充実させることができる。 【態度】作業効率を向上させるための作業環境を工夫することができ、授業時間外学修においても自ら検討し応用することができる。 【技能】表層的な精度に加え、強度および耐久性のある作品構造を制作に取り入れるための基礎的な考え方が身につけている。	【知識】加工方法、基礎技術を理解し作業目的に適切な道具・機械を使い分け、正しく使用する事ができる。 【態度】作業効率を向上させるための作業環境を工夫することができる。 【技能】作品の構造について検討でき、基礎的な考え方が身につけている。	
BIK05-2-036	基礎	総造	総合造形基礎演習6	選択	2	演習	2	3Q						20	30	50	表現の展開と深化3-領域的意識の発展-	彫刻、陶芸、現代的表現の各領域における発展的指導を行う。3つの領域よりそれぞれに興味のある素材、技法、表現形式などからいずれかを選択し、専門領域担当教員の指導のもと制作・研究を行う。領域横断的な視野を獲得し、総合造形で学ぶ基礎的概念と知識をより発展的に拡張し、進級研究・制作に向けた作品を実現する。また、作品発表やキャリア実現に向けたコミュニケーションスキル、プレゼンテーションなど、自らの表現を社会へつなげる力についても併せて高めしていく。	【知識】自らの作品について分析的な視点から言語化し、発表の機会に向け他者へ伝達、共有することで検討を重ね、表現を多面的に探求できている。 【態度】表現力はもちろん、制作を実践する行動力を要として、それらの能力をより高めることができる。 【技能】これまでに培った素材・技法・表現形式を基に、自らの発想やテーマに沿った作品制作を進め、更なる作品表現を目指し高めることができる。	【知識】自らの作品について分析的な視点から言語化し、発表の機会に向け他者へ伝達、共有できる。 【態度】表現力はもちろん、制作を実践する行動力を要として、それらの能力をより高めることができる。 【技能】素材・技法・表現形式を基に、自らの発想やテーマに沿った作品制作を進め、表現を実現できる。	
BIK03-2-026	基礎	染織	染織テキスタイル基礎演習5	選択	2	演習	2	3Q					40		30	30	アジアの染織技法の模様の出し方と特徴を学ぶ	日本を含むアジアの染織を学ぶ。「絣織(イカット)」「蠟染(バティック)」、「藍」などの天然染料による技法と知識を習得し、アジアの染織のなかに多様な表現が広がっていることを学ぶ。 糸や布の染め分けの技法を習得することで生まれる繊細な美しさを知る。「絣織(イカット)」や「蠟染(バティック)」の工程や特徴を理解し、技法の中で工夫できる点を見つけ、アジアの染織を深く知り、自身の表現を探る。	・世界の中でも独特な発達を遂げたアジアに広がる模様染めや織を学び、染織技法とその特徴を深く理解する。 ・布に模様をつくり出すための染織技法を学び、繊細な美しさを発見し、自らの表現へ生かすことができる。 ・アジアの染織技法を理解し、表現するための技術を身につけ、主体的に自身の制作工程の中に取り込むことができる。	・世界の中でも独特な発達を遂げたアジアに広がる模様染めや織を学び、染織技法を知る。 ・布に模様をつくり出すための染織技法を学び、繊細な美しさを発見することができる。 ・アジアの染織技法を理解し、表現するための技術を身につけることができる。	
BIK68-2-052	基礎	ASP	アートプロデュース基礎演習2	選択	2	演習	2	3Q					50		20	30	プロジェクト(社会実装)実践	社会におけるアートプロデュースの必要性を知るために、文化施設や地方自治体、企業の課題の解決に向けて、アートプロデュースの専門性を活かした企画を構想・実践していく。外部組織との連絡・交渉、課題に応じた企画構想、広く社会に向けたパブリック・リレーションズの実践、予算計画と管理、企画の実施を経て、その成果を評価することで、現場での企画運営の能力を磨き、社会の現場に対応する力を獲得する。	①アートプロデュースの必要性を理解し、他者にむけて説明することができる。 ②課題解決のための企画を実践・運営することができる。 ③取り組みの成果を評価・報告することができる。	①アートプロデュースの必要性を理解している。 ②課題解決のための企画を構想することができる。 ③取り組みの成果を評価・報告することの必要性を認識している。	
BIK78-2-059	基礎	歴産	歴史遺産学基礎演習4	選択	2	講義+演習	2	3Q						30	10	60	文化財保存修復演習(装演文化財・文化財科学)	装演文化財保存修復と文化財科学の2つの演習を通し、文化財保存修復の基礎となる有形文化財の材質に関する知識と理解を深める。 【装演文化財】講義では素材・構造、劣化・損傷についての基礎的事項を学び、演習にて軸装や幟装作品を実際に調査し、講義で学んだ知識の定着をはかる。 【文化財科学】講義では、文化財の非破壊調査に多用される分光分析、絵具、色彩などについての基礎知識を学び、演習では実験を通して各種分析方法の基礎を身につけるとともに、文化財に用いられる様々な素材の特徴と劣化のメカニズムを理解する。	・装こう文化財の素材、特に和紙の種類や物性について理解でき、それを記録できる。 ・装こう文化財の劣化・損傷について調査し、その深刻さである程度評価できる。 ・文化財の劣化のメカニズムを理解し、それを説明できる。 ・各種機器分析法の基礎を理解し、材質調査を一人で行えるようになる。 ・実験計画・実験ノートを作成を通じ、研究方法について自分で考えることができる。	・装こう文化財の素材、特に和紙の種類や物性について理解できる。 ・装こう文化財の劣化・損傷について調査する技術を身につける。 ・文化財の劣化のメカニズムを理解できる。 ・各種機器分析法の基礎を理解し、材質調査が行えるようになる。 ・実験計画・実験ノートを作成を通じ、研究方法の基礎を身につける。	
BIK78-2-060	基礎	歴産	歴史遺産学基礎演習5	選択	2	演習	2	3Q					30		40	30	プロジェクト演習1	本授業は社会実装科目として、歴史的に継承されてきた文化遺産(文化財)の調査・保存・修復・活用を、地域社会において実践するための基礎を養うことを目的とする。テーマに応じて小クラスに分かれ、文化財保存修復や歴史遺産に関する実践的課題についてグループワークで取り組む。なお、本授業は2・3回生が合同で行う。	・リサーチのもとに現状把握を行い、重要課題と行動計画を示すことができる。 ・調査方法に関する理論等を理解し、実践によつて的確かつ豊富なデータを得ることができる。 ・調査・保存修復等の実践を、計画に沿って遂行し、質の高い成果を導き出すことができる。 ・他者に働きかけて適切な実施計画をともに立案し、協働することができる。	・現状を的確に把握し、課題と行動計画を示すことができる。 ・調査技術の基本を修得し、実践によつて的確にデータを得ることができる。 ・調査・保存修復等の実践を適切に行ない、一定の成果を導き出すことができる。 ・適切な実施計画を立案し、他者と協働できる。	
BIK99-2-079	基礎	共通	進級研究・制作2	必修	2	講義+演習	4	4Q					20	30	10	20	10	専門技術・知識を用いた研究・作品の発表	2年次の1~3Qで得た学びを元に、各領域の専門性を生かした技術、技法を用いて進級研究・制作を行う。個別の専門領域を理論的・実践的に深めるとともに、他領域を専門とする他者を意識したプレゼンテーションを行い、グループまたは全体でのフィードバックを行う。3年次以降の研究・制作を展開するための基礎を確認する。	専門性を用いた方法で作品や論文などの具体的な形にすることができる。プレゼンテーション技術を身につけ、自身の考えや着想を展示・発表として表現することができる。 知識・専門的な知識を基に自身の理論を構築することができる。態度・展示・発表を通して他者とのコミュニケーションできる 技能・授業で紹介した展示・発表手法を理解し、活かした表現方法が実践できる。	専門性を用いた方法で作品や論文などの具体的な形にすることができる。学びの成果を他者に伝えるためのプレゼンテーションの基礎を身につけることができる。 知識・専門的な知識を基に自身の理論を構築する努力ができる。態度・他者を意識した、展示・発表を行うことができる。 技能・授業で紹介した展示・発表手法を理解することができる。
BIK99-2-080	基礎	共通	現代社会とアート	必修	2	講義	2	4Q	双方向遠隔				30		60	10	現代における社会問題と芸術の役割	現代社会が抱える諸問題、少子高齢化、LGBT、SOGI等。誰にでも起こりうる、身近な社会問題と芸術はどのような関係性があったのか、時代的変遷における社会問題と芸術との関わりについての歴史を振り返り、社会問題と芸術との関係性を考究する。また、様々な社会問題の中にあるような課題があるのか、その課題に対して芸術がどのような役割をもって活動できるのか、多様な分野から芸術を通して多角的な解決策を考える。	現代社会における諸問題に対して身近な問題として捉え、芸術活動がどのような役割を果たすことができるのかを理解し、自らの考えを述べるができる。	現代社会における諸問題に対して身近な問題として捉え、芸術活動がどのような役割を果たすことができるのかを理解している。	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6				
BIK99-2-082	基礎	共通	キャリアデザイン研究	選択	2	演習	2	4Q								様々なキャリアを知り、自身の進路の可能性を広げ、見通しを立てる	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路に関して、大まかな方向性をつかみ、その理由を他者に伝えることができる。 卒業生や企業人など社会における実践者への敬意を持ち、自らの進路への応用を考えることができる。 3年次以降のキャリア活動において、社会全体のスケジュールと活動内容を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術大学での学びを社会に活かす多様な実践例を知っている。 仕事・卒業後の進路の視野を広げ、自らの進路を想定することができる。 3年次以降のキャリア活動において、社会全体のスケジュールと活動内容を把握している。 	
BIK99-3-087	応用	共通	プロフェッショナル研究	必修	3	講義	2	1Q	双方向遠隔							セルフプロデュースの方法を考え、自身の将来に向けて行動を起こす	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化の社会における可能性を理解し、本学科での学修に基づいた自らの進路を定めている。 自己の専門性や本学での学びを、他者に通じるように文章あるいは図版として表現できる。 進路決定に至るまでに取り組む内容と、就活または進学におけるスケジュールを把握し、行動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化の社会における可能性を理解し、本学科での学修について自らの進路・目標を具体的にイメージすることができる。 自己の専門性や素質を俯瞰的にとらえ、他者に向けて述べ、表現することができる。 進路に向かって今の時期だからこそ取り組めることを見極め、主体的に行動できている。 	
BIK99-3-088	応用	共通	領域研究1	必修	3	演習	2	1Q								各自3年次3Qの学生作品展に向けて、研究・制作のプラン作成を行う。そのために本授業ではまず、自身の専門領域の理論や実践を深めるため先行の研究者や作家をリサーチ。さらに3年次の研究・制作の年間計画を立てる。各領域の教員とディスカッションを行い実践に繋げていく。学際的・分析的に捉えて批判的思考による見解を深め、自身が取り組むべき課題を立ち上げる。その成果と年間計画を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術、文化、歴史、社会、思想などの知識をもとに、物事を学際的・分析的に捉え、批判的に思考することで、学生作品展の作品へ繋げていくことができる。 先行の研究者や作家をリサーチし、学際的・分析的に捉えて批判的思考による見解を深めた上で、自主研究・制作の課題を立ち上げることができる。 研究成果を振り返り、内容や年間計画について効果的な発表ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術、文化、歴史、社会、思想などの知識をもとに、物事を学際的・分析的に捉え、批判的に思考することができる。 先行の研究者や作家をリサーチ内容や年間計画について効果的な発表ができる。 自主研究・制作の課題を立ち上げることができる。 研究成果を振り返り、内容や年間計画について発表ができる。 	
BIK99-3-091	応用	共通	表現研究1	選択	3	演習	2	1Q								領域横断型プロジェクト1	<ul style="list-style-type: none"> 様々な領域の知識や技術などを得ると共に、社会と結びついた形で課題の発見・解決、さらに提案につながる実践的な構想を生み出すことができる。 学びについて研究ノートとして効果的にまとめ、身につけた普遍的な分析力を自身の研究・制作に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な領域の知識や技術などを得ると共に、社会と結びついた形で課題を発見・解決する構想を生み出すことができる。 学びについて研究ノートとして効果的にまとめ、自身の研究・制作に活かすことができる。 	
BIK01-3-008	応用	日本画	日本画応用演習1	選択	3	演習	2	1Q								【描画から着想の広げ方を学ぶ】	<ul style="list-style-type: none"> 【知識】着想から絵作りに展開する方法を理解し、的確に描写を進めるための知識を有することができる。 【態度】画面に真摯に向き合い絵画制作の根源的な充実感を体感しながら描画することによって、さらに制作に没頭することができる。 【技能】的確で高度な描写力を身に付けることで、着想と表現の幅を増やし完成度の高い作品を制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識】描画を通じて、絵画制作における着想から絵作りに展開する方法を理解することができる。 【態度】真実に画面に向き合うことで、描くことの根源的な充実感を体感し、描画することができる。 【技能】作品の完成度を上げる描写力をつけることで、着想の幅を増やし表現することができる。 	
BIK02-3-016	応用	油画	油画応用演習1	選択	3	演習	2	1Q								「表現の展開」 素材・技法・形式研究1	<ul style="list-style-type: none"> 美術史における表現は、様々な素材や技法、形式上の発展のもとに展開してきた。この授業では基本的なものから、これまでに扱っていない素材や材料、技法や形式を学ぶことで表現の幅を広げることが目的とする。さらに自身の過去作と比較することで客観的に捉えなすとともに、新たな発想を生み出す力を養うことを目的とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい素材や材料、技法や形式を学ぶことで新たな発想に結びつけ、表現の幅を広げ、具体的に作品に展開することができる。 新たな知識によって、これまでの自作について批判的・客観的に捉え直し、作品制作に応用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい素材や材料、技法や形式を学ぶことで新たな発想に結びつけ、表現の幅を広げることができる。 新たな知識によって、これまでの自作について批判的・客観的に捉え直すことができる。
BIK08-3-045	応用	写映	写真・映像応用演習	選択	3	演習	2	1Q								テーマと技法の探究-旅と文学作品を起点に	<ul style="list-style-type: none"> 【知識】様々な作品事例を自らがリサーチし、内容と形式・手法の関係性を探究することができる。 【態度】テーマに対する技法・表現形式を自らが選び、適切な判断ができるようになる。展覧会に向けて他者と協働することができる。 【技能】自身のテーマを視覚表現として形にするための技術的判断ができるようになる。作品に応じた展示方法を選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識】様々な作品事例から内容と形式・手法の関係性を理解することができる。 【態度】テーマに対する技法・表現形式を自らが選び、適切な判断ができるようになる。 【技能】自身のテーマを視覚表現として形にするための技術的判断ができるようになる。 	
BIK03-3-027	応用	染織	染織テキスタイル応用演習	選択	3	演習	2	1Q								京都のテキスタイル産業、これからのテキスタイルの可能性を探り、リサーチする	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスタイル業界や染織芸術への知見を深め、それらに積極的に関わりを持ち、自身の意見を持ち能動的に授業に臨んでいる。 ・主体的にウルトラファクトリーと関わり、自身の制作に活用するための知識を深められている。 ・パソコンでのテキスタイルデザインの技術をも身に付け、自身で発注データを作り、新しい表現に挑戦できている。 ・社会におけるテキスタイルの未来を柔軟に考察し、自身の見解を述べられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都のテキスタイル産業や美術館、ギャラリーなどの見学を通し、テキスタイル業界や染織芸術への知見を深め、それらに積極的に関わりを持つようになる。 ・能動的に今後自身の制作に活用できるようウルトラファクトリーの最先端の機械への理解、知識を深められている。 ・パソコンでのテキスタイルデザインの技術も身に付け、自身で発注データを作れるようになる。 ・社会におけるテキスタイルの未来を柔軟に考察することができる。 	
BIK68-3-053	応用	ASP	アートプロデュース応用演習1	選択	3	演習	2	1Q								自主企画構想	<ul style="list-style-type: none"> ①コースでの学びを総合的に活用し、芸術と社会、両面における意義を考慮した企画を構想できる。 ②社会の成員としての当事者意識、問題意識と、より良くしようとする倫理観を身につけている。 ③社会の課題を見出す問題発見能力と、課題にアプローチする企画構想力、問題解決能力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コースでの学びを総合的に活用し、企画を構想できる。 ②社会の成員としての当事者意識、問題意識と、倫理観を身につけている。 ③社会の課題を見出す問題発見能力と、課題にアプローチする企画構想力、問題解決能力を身につけている。 	
BIK78-3-061	応用	歴産	歴史遺産学応用演習1	選択	3	演習	2	1Q								プロジェクト演習2	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチのもとに現状把握し、重要課題と行動計画を示すことができる ・調査方法に関する理論を理解し、実践によつて的確かつ豊富なデータを取得することができる ・調査・保存修復等を計画に沿って行い、質の高い成果を導き出すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を的確に把握し、課題と行動計画を示すことができる。 ・調査技術の基本を修得し、実践によつて的確にデータを得ることができる。 ・調査・保存修復等の実践を適切に行い、一定の成果を導き出すことができる。 	

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標				
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6								
BIK99-3-092	応用	共通	超域文化特論	選択	3	講義	2	2Q							20	20	60	クリティカル・シンキング	作品分析・文献講読・ディスカッション・レクチャーなどを通じ、様々な文化的な事象全般(視覚文化・物質文化・聴覚文化)について美術史、考古学、社会学、思想・哲学などの視点から多角的に思考し、論じていくための方法と視座を提供する。自ら収集した情報に基づき、物事を多角的・論理的・批判的に思考し、柔軟な思考によって適切な形で表現することをめざす。	・さまざまな文化的な事象についてリサーチを行い、複数の専門領域を横断して知識・情報を収集することができる。 ・さまざまな文化的な事象について、論理的かつ批判的に思考し、その成果を適切な形で表現することができる。	・さまざまな文化的な事象についてリサーチを行い、専門的な知識・情報を収集することができる。 ・さまざまな文化的な事象について、論理的かつ批判的に思考し、その成果を適切な形で表現することができる。		
BIK99-3-093	応用	共通	コンピュータ応用演習	選択	3	演習	2	2Q						30			40	30	プレゼンテーションスキルの実装	研究・制作をより効果的にプレゼンテーションするためのスキル向上と実装に取り組む授業。紙媒体とデジタル環境でのポートフォリオ、動画を用いたプレゼンテーション、口頭発表等、さまざまな発表ケースを想定する。自身の研究の要約し説明するためのアウトラインの理解から、具出し・テキストの作成、画像や動画のイメージ作成、総合的なビジュアルデザイン等、初動から完成までの流れと、必要な技術を確認しながら、個々の場面に合ったスキルを習得する。	・個々の研究・制作の取り組みを、効果的にプレゼンテーションするための適切な形式を選択する判断ができる。 ・相手に的確に伝えるために必要な文章、視覚設計、ページ構成などのスキルを身につけ、プレゼンテーション力を実践し運用することができる。 ・自らの気づきによってプレゼン資料を適宜修正し、質の向上に努めることができる。	・個々の研究・制作の取り組みを、効果的にプレゼンテーションするための形式を理解することができる。 ・相手に伝えるために必要な文章、視覚設計、ページ構成などのスキルを身につけ、具体的な物・データにすることができる。 ・プレゼン資料を適宜修正し、質の向上に努めることができる。	
BIK99-3-094	応用	共通	領域研究2	選択	3	演習	2	2Q						30			40	40	自主研究・制作の中間発表とフィードバック	各自学生作品展に向けたプランや年間計画に基づき研究・制作を行う。本授業では、これまでに行った先行の研究者や作家リサーチから得た知見を活かし、自主的・積極的に研究・制作をすすめる。また、専門領域教員指導のもとディスカッションや進捗状況のプレゼンテーションを行い、より一層の分析的な思考を進めると共に、構想やテーマを論理的に整理し、さらなる探求への足掛かりとする。	学生作品展に向けたプランや年間計画に基づき、先行研究者や作家リサーチから得た知見を活かし、研究・制作を自主的・積極的に進めることができる。また、ディスカッションや進捗状況のプレゼンテーションからフィードバックを得て、構想やテーマを論理的に整理し、自身の制作をより深めていくことができる。	学生作品展に向けたプランや年間計画に基づき、研究・制作を自主的・積極的に進めることができる。また、ディスカッションや進捗状況のプレゼンテーションからフィードバックを得て、構想やテーマを論理的に整理することができる。	
BIK01-3-009	応用	日本画	日本画応用演習2	選択	3	演習	2	2Q									40	60	【日本画から自己表現につなげる】	本授業では、これまでの授業を通じて学んだ日本画の様々な技法や考え方を総動員し作品制作を行う。そして、ここまでの実践を通して得られた知識・経験等を踏まえ、自己の世界観を具現化する事を実践していく。表現の世界は、無限に広がっている。そして、何を中心に掘え作品化していくのかという事を、自身の考察を踏まえ深めていく。作品を描くということは、自身の意見を述べるといふ事と等しい行為である。その為、『考え方』そのものを今一度検証しつつ、更に発展させることに全力で臨んでいく。そして、その『考え』を表現として作品化していく。	【知識】自己に向き合うことで自身の『考え』を作品として表現する方法を的確に理解し、第三者に伝えられる。 【態度】自身の『考え』に向き合いながら制作に取り組み、計画的に作品を完成できる。他者に惑わされることなく持続的に制作に没頭できる。 【技能】自身の『考え』に基づき、これまで培ってきた知識や技術を遺憾なく発揮し密度の高い作品を完成できる。また、作品を通じてその『考え』を第三者に伝えられる。	【知識】自己に向き合う事により自身の『考え』に気づき、作品として表現する方法を理解できる。 【態度】自身の『考え』に真摯向き合い、制作に取り組むことが事出来る。 【技能】これまで培ってきた絵画作品を成り立たせるための知識や経験を使い、『考え』を具体的に作品化し、それを完成させる事が出来る。	
BIK02-3-017	応用	油画	油画応用演習2	選択	3	演習	2	2Q									30	30	40	「プロセスからの展開」 素材・技法・形式研究2	これまでの制作の慣習を見直すとともに、支持体や素材、用具の扱い方、サイズ、形式などを含め新たなプロセスを試みる。実習を通してそれらのプロセスによって生まれる新たな効果を知り、制作に応用する。また、作品の主題と表現形式の繋がりを探り、適切かつ効果的に表現できるようになることを目的とする。	・新たな支持体や素材、用具の扱い方、サイズ、形式などについての知識を主体的に深い作品制作に応用することができる。 ・作品制作において積極的に新たなプロセスを導入し、表現を進展させることができる。 ・作品の主題と表現形式の繋がりを、相互の関連を結び付け、より発展した形で作品に応用できる。	・新たな支持体や素材、用具の扱い方、サイズ、形式などについての知識を深めることができる。 ・作品制作において新たなプロセスを導入し、表現を展開することができる。 ・作品の主題と表現形式の繋がりを、相互の関連を結び付け作品に応用できる。
BIK68-3-054	応用	ASP	アートプロデュース応用演習2	選択	3	演習	2	2Q						30			20		50	自主企画実践	アートプロデュースの専門性を総合的に活用し、自らの力によって価値を生み出すために、社会課題を発見し、それに応じた企画構想を実施する。展示やプロジェクト実現のためのインストール、予算計画と管理、スケジューリング、パブリック・リレーションをグループワークによって行う。実施後の企画の成果、意義を評価し報告書にまとめる。	①コースでの学びを総合的に活用し、社会課題に対する効果的な企画構想力、マネジメント力を身につけて、企画を実施することができる。 ②社会の成員としての当事者意識、問題意識と、よりよくしようとす倫理観に基づいた実践ができていく。 ③グループによる協働を通して、社会的意義を持った展覧会やプロジェクトの企画構想、実施、評価報告ができていく。	①コースでの学びを総合的に活用した企画構想力、マネジメント力を身につけている。 ②グループによる協働を通して、展覧会やプロジェクトの企画構想、実施、評価報告ができていく。
BIK99-3-089	応用	共通	領域研究3	必修	3	演習	2	3Q						30			30	40	自主研究・制作の仕上げと成果発表(学生作品展)	学生作品展での発表に向けこれまで積み重ねてきた経験を下地に、自主研究・制作を進め、完成・発表・展示する。専門領域教員指導のもと、学生作品展において、自身の研究テーマやアプローチについての効果的なプレゼンテーションがでることを目指す。また、学生作品展会場の空間構成や配置計画等、仲間と協働して学生作品展にむけた準備・展示に取り組む。	自らのテーマや仮説を論理的に整理し、適切な媒体、形式、方法によって具体化し、効果的なプレゼンテーションができる。 学生作品展に向けて仲間と協働し、率直に牽引するリーダーとして自身の役割に責任をもって積極的に取り組むことができる。	自らのテーマや仮説を論理的に整理し、適切な媒体、形式、方法によって具体化することができる。 学生作品展に向けて、仲間と協働し、自身の役割に責任をもって積極的に取り組むことができる。	
BIK99-3-095	応用	共通	キュレーション論	選択	3	講義	2	3Q									20	60	20	キュレーションの技法	キュレーションという言葉は芸術の分野にとどまることなく、近年では情報の収集・保存・整理・編集・公開を通して、新たな価値・意味を提示する包括的な概念として用いられるようになっていく。本講義では展覧会企画を行うための基礎的かつ汎用的な思考法を軸に、古今東西の様々なキュレーションの具体的な実例を紹介しながら、その社会的意義について講じ、専門的な知と豊かな想像力を活かしてヒト・モノ・コトをつなぎ新たな価値を創出するためのキュレーション的思考を身につける。	キュレーションの基本的な考え方と技法を理解し、キュレーション的思考を身につけるとともに、当事者意識をもって他のキュレーションの実践について批判的に捉え、自らの考えを述べる事ができる。	キュレーションの基本的な考え方と技法を理解し、キュレーション的思考を身につけるとともに、当事者意識をもって他のキュレーションの実践について批判的に捉える姿勢を身につける。
BIK99-3-096	応用	共通	表現研究2	選択	3	演習	2	3Q									30	40	30	領域横断型プロジェクト2	1、2年次で修得した知識をもとに領域横断型プロジェクトを通して、普遍的かつ社会実装型の分析力を身につける。具体的には領域を横断した教員同士がタッグを組み、学生と共に社会に関わるリサーチを通して課題を立ち上げると共に、領域横断的な技術や材料を新たな視点で探求する。その研究プロセスにおける発想を具体的に社会に結び付けるための実践的なプロジェクトに取り組むことで、学際的な分析力と課題解決能力を磨く。	領域横断的な知識や技術などをもとに新たな視点で探求し、社会と結びついた形で具体的に応用や展開を発想することができる。 学びについて研究ノートとして効果的にまとめ、身につけた普遍的かつ社会実装型の分析力を自身の研究・制作及び全体のプロジェクトの中で適切に活かすことができる。	様々な領域の知識や技術をもとに新たな視点で探求することができる。 学びについて研究ノートとして効果的にまとめ、自身の研究・制作及び全体のプロジェクトの中で活かすことができる。
BIK02-3-018	応用	油画	油画応用演習3	選択	3	演習	2	3Q									30	30	40	「テーマの展開」 現代表現研究2	3年間で学んだ基本的な原理や形式、素材から発想力を高めるとともに、これまでの作品を体系的に分析しテーマを探る。それをもとに制作を行い内容と形式の関係性を深めていく。また、作品展示方法の考察および実施を通して、卒業制作へ向けての土台とする。	・制作と言葉の関わり方を多面的・体系的に理解し、独自性のあるテーマの方向性を獲得することができる。 ・制作テーマに合った技法を効果的に選択し、表現を深めるとともに作品として具体化することができる。 ・作品と自身のテーマを他者に向け効果的かつ実践的にプレゼンテーションすることができる。	・制作と言葉の関わり方を多面的に理解し、テーマの方向性を獲得することができる。 ・制作テーマに合った技法を選択し、表現を深めることができる。 ・作品を他者に向け効果的にプレゼンテーションすることができる。

ナンバリング	段階	コース	科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	開講期	遠隔授業	DPとの関連						テーマ	目的と概要	学修目標	到達目標				
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6								
BIK78-3-062	応用	歴史	歴史遺産学応用演習2	選択	3	演習	2	3Q							30	40	30	プロジェクト演習3	<p>本授業は社会実装科目として、歴史的に継承されてきた文化遺産(文化財)の調査・保存・修復・活用を、地域社会において実践し、その成果を発信することを目的とする。</p> <p>テーマに応じて小クラスに分かれ、文化財保存修復や歴史遺産に関する実践的課題についてグループワークで取り組む。なお、本授業は2・3回生が合同で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチをもとに現状把握し、重要課題と行動計画を示すことができる ・調査方法に関する理論を理解し、的確かつ豊富なデータを得ることができる ・調査等を計画的に遂行し、質の高い成果を導き出すことができる ・課題と目的に応じ、適切に調査結果を整理できる ・柔軟性、誠実性、責任感があり、計画的に作業を遂行できる。自身の意見を積極的に発言して作業するだけでなく、他者への配慮に基づき的確なサポートができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチをもとに現状把握し、重要課題と行動計画を示すことができる ・調査方法に関する理論を理解し、的確かつ豊富なデータを得ることができる ・調査等を計画的に遂行し、質の高い成果を導き出すことができる ・課題と目的に応じ、適切に調査結果を整理できる ・柔軟性、誠実性、責任感があり、計画的に作業を遂行できる。自身の意見を積極的に発言して作業するだけでなく、他者への配慮に基づき的確なサポートができる。 		
BIK99-3-090	応用	共通	進級研究・制作3	必修	3	講義・演習	4	4Q						10	10	20	20	20	20	自主制作・研究の追考 ディスカッションとフィードバック、ブラッシュアップ	<p>3年次3Q 制作展で発表した自主研究・制作について、他領域を専門とする教員や学生とのディスカッションやフィードバックを経て、自身の現時点での問題点や課題に向き合う。これまでの学びの軌跡について、それぞれの目的や意図を明確にし、背景や制作の状況、環境などを整理し再認識する。そのうえで、作品展に発表した研究・制作のブラッシュアップとする自主課題を設定し、その実現に取り組む。卒業研究・制作のプロトタイプとし、4年次に向けた展望を築く。</p>	<p>他領域の教員や学生とのディスカッションを通じ、多様な知識・情報を主体的に収集し、他者への想像力や反省的視点及び創造の可能性を発見することができる。これまで進めてきた自身の構想やテーマを論理的に整理し、柔軟な発想で、適切な媒体、形式、方法などを再考し、社会を意識したより効果的な具体化を実現することができる。</p>	<p>他領域の教員や学生とのディスカッションを通じ、多様な知識・情報を収集し、創造の可能性を発見することができる。これまで進めてきた自身の構想やテーマを論理的に整理し、適切な媒体、形式、方法などを再考し、より効果的な具体化を実現することができる。</p>
BIK99-4-097	発展	共通	卒業研究・制作	必修	4	演習	8	後期						10	10	20	10	30	20	4年間の集大成 卒業研究・制作の仕上げ	<p>専門性に基づく分析や思考を組み合わせた発想により4年間の集大成となる卒業研究・制作に取り組む。ゼミ指導のもと、きめ細かい個別面談とプレゼンテーションを繰り返すことを通じ、自身の研究テーマやアプローチ、素材・技法などの検討を重ねる。探究心と向上心を持ち、自主的・積極的に研究・制作を進める。また、卒業会場の空間構成や配置計画等、仲間と協働して卒業展へむけた準備・展示に取り組む。</p>	<p>制作・研究において必要な知識・情報を主体的かつ体系的に収集することができる。多様な価値観との共生の中で他者への想像力や反省的視点及び創造のための協働によって知識や技術を適切に社会に活かすことができる。物事を学際的・分析的・批判的・論理的な整合性をもって捉え、豊かな想像力と専門的な分析・思考を組み合わせた柔軟な発想で、枠にとらわれない独創的な新基軸を持って具体化することができる。</p>	<p>制作・研究において必要な知識・情報を収集することができる。多様な価値観との共生の中で他者への想像力を働かせ、適切に社会に活かす努力ができる。物事を学際的・分析的・批判的・論理的な整合性をもって捉え、豊かな想像力と専門的な分析・思考を組み合わせた柔軟な発想で具体化することができる。</p>
BIK99-4-098	発展	共通	領域研究4	選択	4	演習	2	1Q						30			30	40		卒業研究・制作のプランニング・リサーチと発表	<p>卒業研究・制作を着実に進めてゆくための準備として、自らの仮説やテーマ、アプローチをしっかりと吟味し、そのために必要なリサーチや試作に着手する。各領域の担当教員による個別面談を受けながら、3年次までの活動を振り返って研究内容を検証、構想の掘り下げ、整理を行い、それをもとに4年次一年間の研究・制作計画をたてる。</p>	<p>卒業研究・制作に必要なテーマや仮説を論理的に整理しつつ、リサーチや試作を繰り返し、領域の枠にとらわれない独自性を持ったものへと発展させることができる。また、それらを具体化するための詳細な計画を立てて発表し、より高度なレベルで卒業研究・制作を進めていくことができる。</p>	<p>卒業研究・制作に必要なテーマや仮説を論理的に整理しつつも、領域の枠にとらわれない独自性を持ったものへと発展させることができる。また、それらを具体化するための詳細な計画を立て、発表をすることができる。</p>
BIK99-4-099	発展	共通	領域研究5	選択	4	演習	2	2Q							30			30	40	卒業研究・制作の中間発表とフィードバック	<p>前期のまとめとして卒業研究・制作のプランの精査と実行に取り掛かる。専門領域教員指導のもとディスカッションを繰り返すと共に他領域の教員及び学生からのフィードバックを得て、自身の研究テーマやアプローチ、素材・技法などの検討を重ねる。そこで得た分析・思考によって後期卒業研究・制作への具体的構想を得て、予備研究・制作の発表を目的とする。</p>	<p>卒業研究・制作のプランの精査、他者からのフィードバックなどを得て、独自のテーマや仮説を構想し、後期卒業研究・制作として具体的に実行することができる。また、自主的・積極的に研究・制作をすすめると共に、素材や技法について検討を繰り返した結果と、自身の研究・制作の進捗状況について効果的にプレゼンテーションができる。</p>	<p>卒業研究・制作のプランの精査、他者からのフィードバックなどを得て独自のテーマや仮説を構想し行動することができる。また、自主的・積極的に研究・制作をすすめると共に、自身の研究・制作の進捗状況についてプレゼンテーションができる。</p>
BIK78-4-063	発展	歴史	歴史遺産学発展演習	選択	4	演習	2	2Q						30			40		30	研究実践演習	<p>本授業では、4年次までに培ってきた基礎的教養と専門的知識を基礎としつつ、「歴史遺産学」をより幅広い観点から捉え直し、各専門分野の最先端の学術研究に触れることで、自らのキャリア形成、学問的スキルの向上、卒業研究の発展へと具体的に接続することを目的とする。歴史遺産に関わる各専門領域の位置づけや相互関係、また学史をふまえて、最新の理論・方法論・実践にもとづく調査研究の課題・内容を聞き、討論を行う。</p>	<p>知識：歴史遺産学を構成する様々な学問領域について最先端の研究課題・内容を理解し、現状の到達点と問題点を的確に整理することができる。態度：関連諸分野に対して視野を広げるとともに、得られた情報を自分自身の卒業研究・制作と具体的に関連付けて、研究構想を発展させることができる。技能：授業を通して得られた理解にとどまらず、関連する研究の情報や研究史を整理し、研究の意義や将来の展望について論理的かつ具体的に説明することができる。</p>	<p>知識：歴史遺産学を構成する様々な学問領域を理解するとともに、それらの最先端の研究課題・内容を理解することができる。態度：自分自身の専門だけにとらわれず、関連諸分野に対して積極的に学ぶ姿勢をもち、自分自身の卒業研究・制作に役立てることができる。技能：授業を通して得られた理解を適切に整理し、自分自身の言葉で各分野の研究の意義を他者に説明することができる。</p>